

結婚と出産に関する意識調査 報告書

平成27年3月

富山県

目次

調査の概要.....	1
結婚経験.....	2
既婚者について.....	4
理想的な子どもの数.....	4
実際に持つつもりの子どもの数.....	6
独身者について.....	9
ほしい子どもの数.....	9
結婚の意思.....	10
全体.....	13
出生にかかる目標指標の設定.....	13
希望出生率.....	14
少子化・人口減少対策に必要な施策.....	15
使用した調査票.....	20
〈参考資料〉	
自由意見.....	23

全国調査とは、国立社会保障・人口問題研究所による「第14回出生動向基本調査」であり、既婚者は夫婦調査の初婚どうしの妻の回答、独身者は独身者調査の女性の回答データを参照している。

注：今回調査の「全体」とは、特に指定のない限り20歳～39歳の回答者のことを指す。

ただし、「希望出生率」算出の際、全国数値に準じ、対象を20歳～34歳とした。そのため、集計表には参考として全体（20歳～39歳）のほか、20歳～34歳の数値も併記した。

◆調査の概要

(1) 調査の目的

子育て支援・少子化対策条例に基づき、新たな子育て支援・少子化対策に関する基本計画を策定するため、その基礎資料となる意識調査を実施

(2) 調査の方法

県内在住の20代、30代の女性を無作為に抽出し、郵送により配布・回収を行った。

(3) 調査期間

平成26年12月～平成27年1月

(4) 調査票の回収状況

	発送数	回収数	回収率
全体	2000	655	32.8%
20代	807	221	27.4%
30代	1193	434	36.4%

(5) 回答者の概要

【年齢別】

		回答数	%
1	20歳～24歳	106	16.2
2	25歳～29歳	115	17.6
3	30歳～34歳	192	29.3
4	35歳～39歳	242	36.9
		655	100.0

【居住地別】

		回答数	%
1	富山市	258	39.4
2	高岡市	106	16.2
3	射水市	60	9.2
4	魚津市	29	4.4
5	氷見市	29	4.4
6	滑川市	20	3.1
7	黒部市	28	4.3
8	砺波市	30	4.6
9	小矢部市	13	2.0
10	南砺市	25	3.8
11	舟橋村	1	0.2
12	上市町	7	1.1
13	立山町	12	1.8
14	入善町	14	2.1
15	朝日町	4	0.6
	不明	19	2.9
		655	100.0

◆結婚経験

未婚者は 37.4%、既婚者は 59.4%、離別・死別が 3.2%である。

【結婚経験 年齢別】

(上段:度数、下段:%)

		合計	未婚	既婚	離別 ・死別	不明
20歳～39歳		655 100.0	245 37.4	389 59.4	21 3.2	-
20歳～34歳		413 100.0	206 49.9	202 48.9	5 1.2	-
年齢	20歳～24歳	106 100.0	93 87.7	13 12.3	- -	-
	25歳～29歳	115 100.0	65 56.5	49 42.6	1 0.9	-
	30歳～34歳	192 100.0	48 25.0	140 72.9	4 2.1	-
	35歳～39歳	242 100.0	39 16.1	187 77.3	16 6.6	-

既婚者が 389 人で、そのうち初婚同士が 347 人であり、既婚者に占める初婚同士の割合は 89.2%である。

【夫婦の初再婚の別】

(上段:度数、下段:%)

		夫の初再婚の別				
		合計	初婚	離婚後再婚	死別後再婚	不明
全体		389 100.0	353 90.7	31 8.0	- -	5 1.3
あなたの初再婚の別	初婚	376 100.0	347 92.3	24 6.4	- -	5 1.3
	離婚後再婚	13 100.0	6 46.2	7 53.8	- -	-
	死別後再婚	- -	- -	- -	- -	-
	不明	- -	- -	- -	- -	-

既婚者 389 人のうち、初婚が 96.7%、離婚後再婚が 3.3%である。

【回答者本人の初再婚の別 年齢別】

(上段:度数、下段:%)

		合計	初婚	離婚後 再婚	死別後 再婚	不明
20歳～39歳		389 100.0	376 96.7	13 3.3	- -	- -
20歳～34歳		202 100.0	197 97.5	5 2.5	- -	- -
妻の 年齢	20歳～24歳	13 100.0	13 100.0	- -	- -	- -
	25歳～29歳	49 100.0	48 98.0	1 2.0	- -	- -
	30歳～34歳	140 100.0	136 97.1	4 2.9	- -	- -
	35歳～39歳	187 100.0	179 95.7	8 4.3	- -	- -

【夫の初再婚の別 年齢別】

(上段:度数、下段:%)

		合計	初婚	離婚後 再婚	死別後 再婚	不明
20歳～39歳		389 100.0	353 90.7	31 8.0	- -	5 1.3
20歳～34歳		202 100.0	183 90.6	16 7.9	- -	3 1.5
妻の 年齢	20歳～24歳	13 100.0	12 92.3	1 7.7	- -	- -
	25歳～29歳	49 100.0	47 95.9	1 2.0	- -	1 2.0
	30歳～34歳	140 100.0	124 88.6	14 10.0	- -	2 1.4
	35歳～39歳	187 100.0	170 90.9	15 8.0	- -	2 1.1

◆既婚者について

≪理想的な子どもの数≫

既婚者の理想的な子どもの数は、全体では「2人」が46.3%、「3人」が46.0%である。20歳～34歳では、「3人」が53.0%と半数以上を占める。

「4人以上（「4人」+「5人以上」以下同じ）」を理想とする人の割合は30歳代で若干高い。

初婚どうしの夫婦の妻の理想的な子どもの数は、全体では「2人」が48.1%、「3人」が45.8%である。

【理想的な子どもの数 年齢別】

(上段:度数、下段:%)

		合計	1人	2人	3人	4人	5人以上	子どもは いない	不明
20歳～39歳		389 100.0	5 1.3	180 46.3	179 46.0	12 3.1	3 0.8	3 0.8	7 1.8
20歳～34歳		202 100.0	1 0.5	82 40.6	107 53.0	7 3.5	3 1.5	- -	2 1.0
年齢	20歳～24歳	13 100.0	- -	4 30.8	9 69.2	- -	- -	- -	- -
	25歳～29歳	49 100.0	- -	24 49.0	22 44.9	1 2.0	- -	- -	2 4.1
	30歳～34歳	140 100.0	1 0.7	54 38.6	76 54.3	6 4.3	3 2.1	- -	- -
	35歳～39歳	187 100.0	4 2.1	98 52.4	72 38.5	5 2.7	- -	3 1.6	5 2.7

【理想的な子どもの数（初婚どうし） 年齢別】

(上段:度数、下段:%)

		合計	1人	2人	3人	4人	5人以上	子どもは いない	不明
20歳～39歳		347 100.0	3 0.9	167 48.1	159 45.8	10 2.9	1 0.3	1 0.3	6 1.7
20歳～34歳		181 100.0	1 0.6	78 43.1	94 51.9	5 2.8	1 0.6	- -	2 1.1
年齢	20歳～24歳	12 100.0	- -	4 33.3	8 66.7	- -	- -	- -	- -
	25歳～29歳	46 100.0	- -	24 52.2	19 41.3	1 2.2	- -	- -	2 4.3
	30歳～34歳	123 100.0	1 0.8	50 40.7	67 54.5	4 3.3	1 0.8	- -	- -
	35歳～39歳	166 100.0	2 1.2	89 53.6	65 39.2	5 3.0	- -	1 0.6	4 2.4

理想的な子どもの数は、今回調査のほうが「3人」と回答した割合が全国調査より高いものの、「4人以上」とする回答は全国調査が高い。

【理想的な子どもの数（全国） 年齢別】

※第14回出生動向基本調査（2010年） 夫婦調査

（上段：度数、下段：％）

		合計	1人	2人	3人	4人	5人以上	子どもは いない	不明
20歳～39歳		3518 100.0	132 3.8	1724 49.0	1329 37.8	145 4.1	29 0.8	92 2.6	67 1.9
20歳～34歳		1774 100.0	60 3.4	889 50.1	686 38.7	60 3.4	14 0.8	35 2.0	30 1.7
年齢	20歳～24歳	132 100.0	2 1.5	55 41.7	61 46.2	9 6.8	1 0.8	3 2.3	1 0.8
	25歳～29歳	520 100.0	10 1.9	249 47.9	228 43.8	16 3.1	5 1.0	4 0.8	8 1.5
	30歳～34歳	1122 100.0	48 4.3	585 52.1	397 35.4	35 3.1	8 0.7	28 2.5	21 1.9
	35歳～39歳	1744 100.0	72 4.1	835 47.9	643 36.9	85 4.9	15 0.9	57 3.3	37 2.1

《実際に持つつもりの子どもの数》

既婚者が実際に持つつもりの子どもの数は、全体では「2人」が62.7%、「3人」が19.0%である。
20歳～34歳でみると、「3人」と回答した割合が若干高く23.3%である。

初婚どうしの夫婦の妻が実際に持つつもりの子どもの数は、全体では「2人」が64.6%、「3人」が19.0%であり、全体での回答と傾向は変わらない。

【実際に持つつもりの子どもの数 年齢別】

(上段:度数、下段:%)

		合計	1人	2人	3人	4人	5人以上	子どもは いない	不明
20歳～39歳		389 100.0	58 14.9	244 62.7	74 19.0	5 1.3	-	4 1.0	4 1.0
20歳～34歳		202 100.0	21 10.4	126 62.4	47 23.3	4 2.0	-	1 0.5	3 1.5
年齢	20歳～24歳	13 100.0	4 30.8	5 38.5	4 30.8	-	-	-	-
	25歳～29歳	49 100.0	5 10.2	31 63.3	10 20.4	1 2.0	-	-	2 4.1
	30歳～34歳	140 100.0	12 8.6	90 64.3	33 23.6	3 2.1	-	1 0.7	1 0.7
	35歳～39歳	187 100.0	37 19.8	118 63.1	27 14.4	1 0.5	-	3 1.6	1 0.5

【実際に持つつもりの子どもの数（初婚どうし） 年齢別】

(上段:度数、下段:%)

		合計	1人	2人	3人	4人	5人以上	子どもは いない	不明
20歳～39歳		347 100.0	48 13.8	224 64.6	66 19.0	3 0.9	-	2 0.6	4 1.2
20歳～34歳		181 100.0	18 9.9	115 63.5	42 23.2	2 1.1	-	1 0.6	3 1.7
年齢	20歳～24歳	12 100.0	3 25.0	5 41.7	4 33.3	-	-	-	-
	25歳～29歳	46 100.0	4 8.7	30 65.2	9 19.6	1 2.2	-	-	2 4.3
	30歳～34歳	123 100.0	11 8.9	80 65.0	29 23.6	1 0.8	-	1 0.8	1 0.8
	35歳～39歳	166 100.0	30 18.1	109 65.7	24 14.5	1 0.6	-	1 0.6	1 0.6

実際に持つつもりの子どもの数は、「3人」、「4人以上」と回答した割合は全国調査が高い。

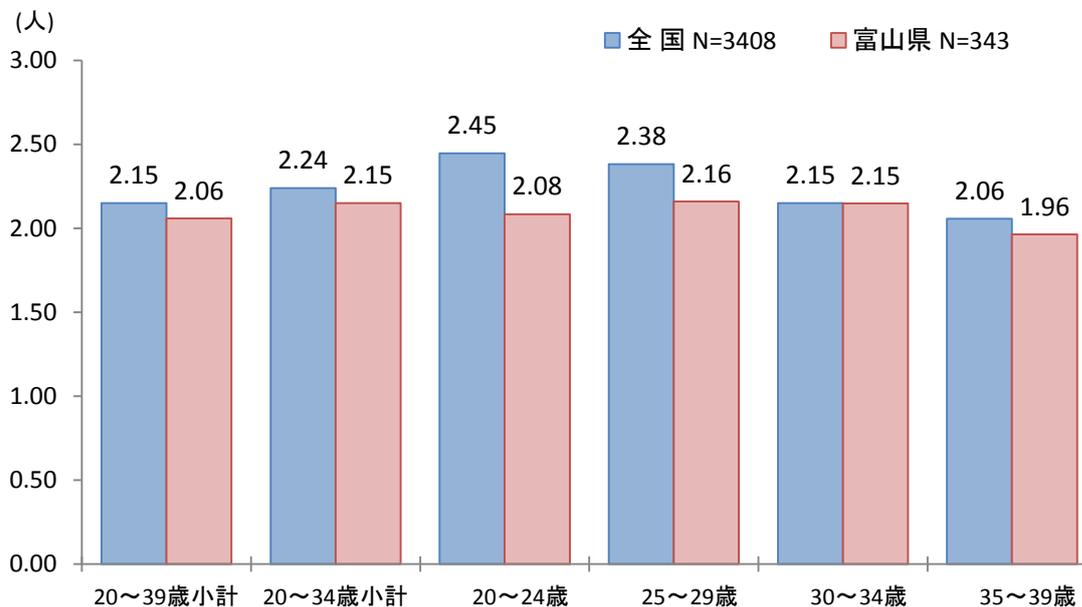
【実際に持つつもりの子どもの数（全国） 年齢別】

※第14回出生動向基本調査（2010年） 夫婦調査

(上段:度数、下段:%)

		合計	1人	2人	3人	4人	5人以上	子どもはいらない	不明
20歳～39歳		3518 100.0	362 10.3	2012 57.2	845 24.0	79 2.2	18 0.5	92 2.6	110 3.1
20歳～34歳		1774 100.0	143 8.1	987 55.6	509 28.7	42 2.4	9 0.5	31 1.7	53 3.0
年齢	20歳～24歳	132 100.0	5 3.8	64 48.5	51 38.6	8 6.1	- -	2 1.5	2 1.5
	25歳～29歳	520 100.0	29 5.6	269 51.7	188 36.2	13 2.5	4 0.8	2 0.4	15 2.9
	30歳～34歳	1122 100.0	109 9.7	654 58.3	270 24.1	21 1.9	5 0.4	27 2.4	36 3.2
	35歳～39歳	1744 100.0	219 12.6	1025 58.8	336 19.3	37 2.1	9 0.5	61 3.5	57 3.3

【既婚者の平均予定子ども数（全国比較） 年齢別】



平均予定子ども数は、初婚どうしの人が実際に持つつもりの子どもの数の平均値である。「子どもはいらない」は0人とし、不明は除いて算出した。

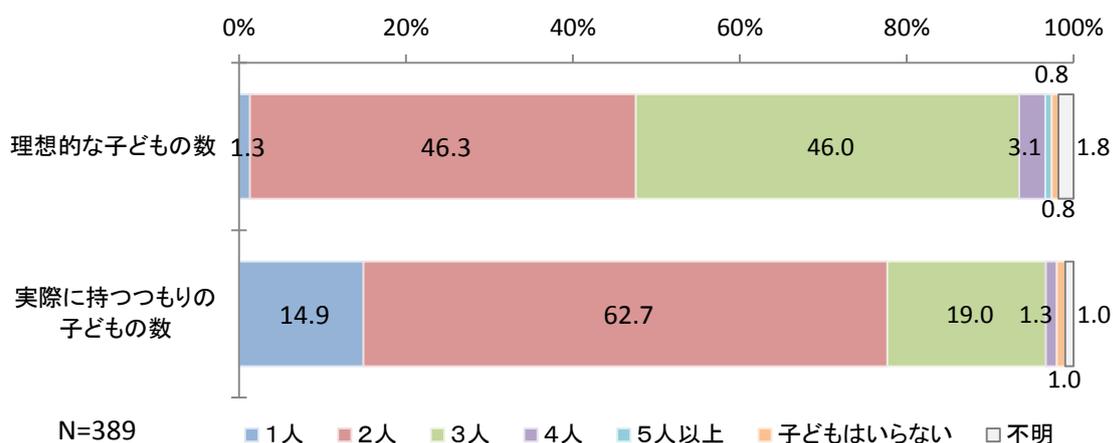
既婚者の理想的な子どもの数と、実際に持つつもりの子どもの数については、理想どおりの子ども数を実際に持つつもりとする回答者は約半数である。理想より実際に持つつもりの子どもの数が少ない回答者は4割強である。

【理想と実際の子どもの数の差 年齢別】

(上段:度数、下段:%)

		合計	理想=実際	理想>実際	理想<実際	その他	不明
20歳～39歳		389	199	171	10	7	2
		100.0	51.2	44.0	2.6	1.8	0.5
20歳～34歳		202	102	89	7	3	1
		100.0	50.5	44.1	3.5	1.5	0.5
年齢	20歳～24歳	13	7	6	-	-	-
		100.0	53.8	46.2	-	-	-
	25歳～29歳	49	28	16	2	2	1
		100.0	57.1	32.7	4.1	4.1	2.0
30歳～34歳	140	67	67	5	1	-	
	100.0	47.9	47.9	3.6	0.7	-	
35歳～39歳	187	97	82	3	4	1	
	100.0	51.9	43.9	1.6	2.1	0.5	

【理想的な子どもの数と実際に持つつもりの子どもの数の割合】



◆独身者について

《ほしい子どもの数》

独身者（未婚、離別・死別）がほしいと考える子どもの数は、全体では「2人」が60.9%、「3人」では16.5%である。年齢別にみると、年齢が若いほど「3人」の割合が増える。また、年齢が高いほど「子どもはいる」とする割合が増える。

ほしい子どもの数は「3人」「4人以上」と回答した割合は全国調査が高い。

【ほしい子どもの数 年齢別】

(上段:度数、下段:%)

		合計	1人	2人	3人	4人	5人以上	子どもは いない	不明
20歳～39歳		266 100.0	21 7.9	162 60.9	44 16.5	1 0.4	2 0.8	30 11.3	6 2.3
20歳～34歳		211 100.0	12 5.7	136 64.5	38 18.0	1 0.5	2 0.9	18 8.5	4 1.9
年齢	20歳～24歳	93 100.0	5 5.4	57 61.3	20 21.5	1 1.1	2 2.2	7 7.5	1 1.1
	25歳～29歳	66 100.0	1 1.5	45 68.2	12 18.2	- -	- -	6 9.1	2 3.0
	30歳～34歳	52 100.0	6 11.5	34 65.4	6 11.5	- -	- -	5 9.6	1 1.9
	35歳～39歳	55 100.0	9 16.4	26 47.3	6 10.9	- -	- -	12 21.8	2 3.6

【希望する子どもの数（全国） 年齢別】

※第14回出生動向基本調査（2010年） 独身者調査

(上段:度数、下段:%)

		合計	1人	2人	3人	4人以上	子どもは いない	不明
20歳～39歳		3303 100.0	257 7.8	1816 55.0	623 18.9	70 2.1	368 11.1	169 5.1
20歳～34歳		2876 100.0	192 6.7	1627 56.6	590 20.5	66 2.3	267 9.3	134 4.7
年齢	20歳～24歳	1371 100.0	71 5.2	769 56.1	341 24.9	36 2.6	106 7.7	48 3.5
	25歳～29歳	895 100.0	58 6.5	542 60.6	158 17.7	15 1.7	84 9.4	38 4.2
	30歳～34歳	610 100.0	63 10.3	316 51.8	91 14.9	15 2.5	77 12.6	48 7.9
	35歳～39歳	427 100.0	65 15.2	189 44.3	33 7.7	4 0.9	101 23.7	35 8.2

《結婚の意思》

独身者（未婚、離別・死別）の結婚に対する考えは、全体では「いずれ結婚するつもり」が 87.2% である。結婚経験の別にみると、離別・死別の人の結婚意欲が 6 割弱と低い。

20 歳～34 歳では、「いずれ結婚するつもり」とする割合が、全国調査より今回調査の方が高い。

【一生を通じた結婚に対する考え 年齢別】

(上段:度数、下段:%)

		合計	いずれ 結婚するつもり	一生結婚する つもりはない	不明
20歳～39歳		266 100.0	232 87.2	26 9.8	8 3.0
20歳～34歳		211 100.0	193 91.5	15 7.1	3 1.4
年齢	20歳～24歳	93 100.0	87 93.5	5 5.4	1 1.1
	25歳～29歳	66 100.0	61 92.4	5 7.6	- -
	30歳～34歳	52 100.0	45 86.5	5 9.6	2 3.8
	35歳～39歳	55 100.0	39 70.9	11 20.0	5 9.1
結婚 経験	未婚	245 100.0	220 89.8	20 8.2	5 2.0
	離別・死別	21 100.0	12 57.1	6 28.6	3 14.3

【結婚の意欲（全国） 年齢別】

※第 14 回出生動向基本調査（2010 年） 独身者調査

(上段:度数、下段:%)

		合計	いずれ 結婚するつもり	一生結婚する つもりはない	不明
20歳～39歳		3303 100.0	2887 87.4	265 8.0	151 4.6
20歳～34歳		2876 100.0	2570 89.4	189 6.6	117 4.1
年齢	20歳～24歳	1371 100.0	1253 91.4	74 5.4	44 3.2
	25歳～29歳	895 100.0	799 89.3	58 6.5	38 4.2
	30歳～34歳	610 100.0	518 84.9	57 9.3	35 5.7
	35歳～39歳	427 100.0	317 74.2	76 17.8	34 8.0

「いずれ結婚するつもり」と回答した人のほしい子どもの数は、全体で「2人」が66.8%、「3人」が18.5%である。

全国調査では、「3人」が20.9%、「4人以上」が2.4%と、今回調査より多くの子どもの数を望んでいる。

【ほしい子どもの数（結婚の意思あり） 年齢別】

(上段:度数、下段:%)

		合計	1人	2人	3人	4人	5人以上	子どもは いない	不明
20歳～39歳		232 100.0	13 5.6	155 66.8	43 18.5	1 0.4	2 0.9	14 6.0	4 1.7
20歳～34歳		193 100.0	10 5.2	131 67.9	38 19.7	1 0.5	2 1.0	9 4.7	2 1.0
年齢	20歳～24歳	87 100.0	5 5.7	56 64.4	20 23.0	1 1.1	2 2.3	3 3.4	- -
	25歳～29歳	61 100.0	1 1.6	44 72.1	12 19.7	- -	- -	3 4.9	1 1.6
	30歳～34歳	45 100.0	4 8.9	31 68.9	6 13.3	- -	- -	3 6.7	1 2.2
	35歳～39歳	39 100.0	3 7.7	24 61.5	5 12.8	- -	- -	5 12.8	2 5.1

【希望する子どもの数（生涯の結婚意思あり）（全国） 年齢別】

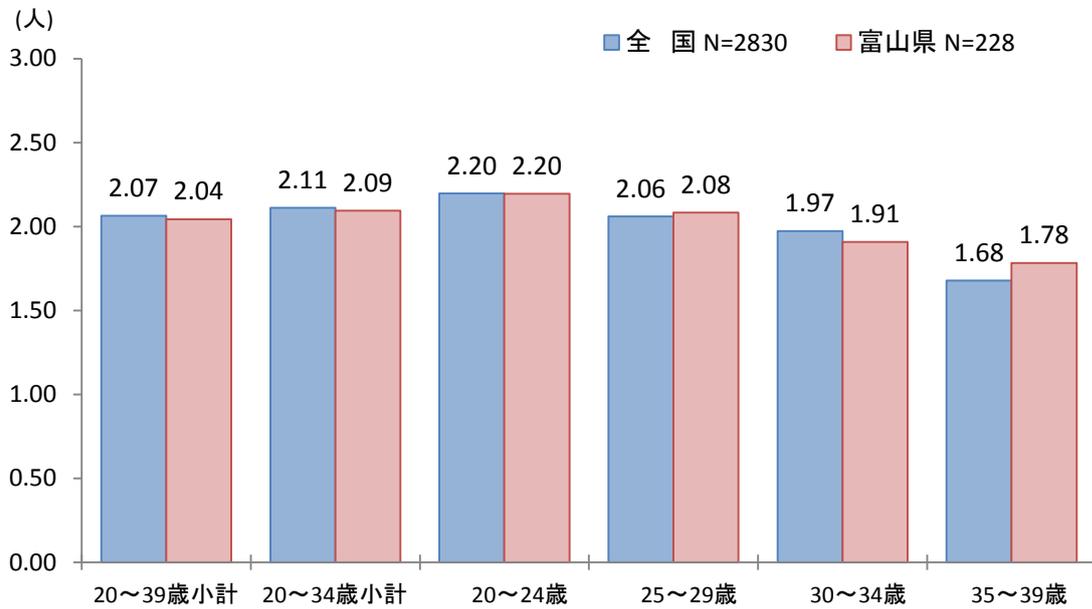
※第14回出生動向基本調査（2010年） 独身者調査

(上段:度数、下段:%)

		合計	1人	2人	3人	4人以上	子どもは いない	不明
20歳～39歳		2887 100.0	231 8.0	1760 61.0	604 20.9	68 2.4	167 5.8	57 2.0
20歳～34歳		2570 100.0	172 6.7	1585 61.7	575 22.4	64 2.5	129 5.0	45 1.8
年齢	20歳～24歳	1253 100.0	63 5.0	751 59.9	336 26.8	35 2.8	50 4.0	18 1.4
	25歳～29歳	799 100.0	51 6.4	528 66.1	150 18.8	15 1.9	43 5.4	12 1.5
	30歳～34歳	518 100.0	58 11.2	306 59.1	89 17.2	14 2.7	36 6.9	15 2.9
	35歳～39歳	317 100.0	59 18.6	175 55.2	29 9.1	4 1.3	38 12.0	12 3.8

【独身者の平均希望子ども数（全国比較） 年齢別】

【独身者の平均希望子ども数】



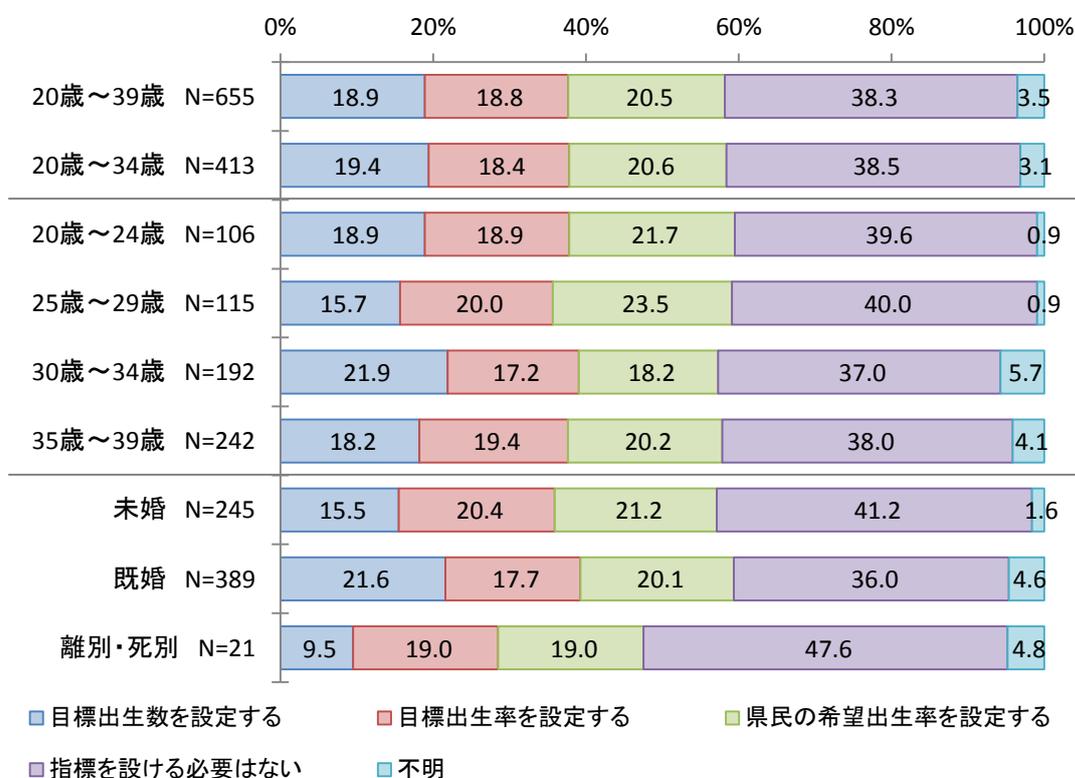
平均希望子ども数は、「いずれ結婚するつもり」と答えた人がほしい子どもの数の平均値である。「5人以上」は5人、「子どもはほしくない」は0人とし、不明は除いて算出した。

◆全体

《出生にかかる目標指標の設定》

『出生にかかる目標指標』を設定することについては、何らかの目標を設定する（「目標出生数を設定する」+「目標出生率を設定する」+「県民の希望出生率を設定する」）との回答が 58.2%、「指標を設ける必要はない」と回答した割合が 38.3%である。

【出生にかかる目標指標の設定について 年齢・結婚経験別】



《希望出生率》

「希望出生率」は、国民（県民）の結婚や子育ての希望がかなった場合の出生率であり、結婚や子育てに関する現実と希望とのギャップを解消し、希望ができるだけ実現できるよう取り組む必要があります。

「日本創成会議」人口問題検討分科会の試算（平成 26 年 5 月 8 日）を参考に、今回実施した「結婚と出産に関する意識調査」データに基づき、富山県民の希望出生率を試算した。

$$\text{「希望出生率」} = \{ \text{既婚者割合} \times \text{予定子ども数} + \text{未婚者割合} \times \text{未婚結婚希望割合} \times \text{理想子ども数} \} \times \text{離別等効果}$$

富山県の希望出生率の算出根拠（対象はいずれも 20～34 歳の女性）

①既婚者割合……………平成 22 年国勢調査による有配偶者割合	41.3%
②予定子ども数……………妻の年齢 20～34 歳の初婚どうしの夫婦	2.15 人
③未婚者割合……………平成 22 年国勢調査による有配偶者以外（不詳含む）の割合	58.7%
④未婚結婚希望割合…「いずれ結婚するつもり」と回答した未婚者	91.5%
⑤理想子ども数……………「いずれ結婚するつもり」と回答した未婚者	2.09 人
⑥離別等効果……………国立社会保障 人口問題研究所数値	0.938

※②④⑤は、「結婚と出産に関する意識調査」より

$$\{ (41.3\% \times 2.15 \text{ 人}) + (58.7\% \times 91.5\% \times 2.09 \text{ 人}) \} \times 0.938 \doteq \underline{\underline{1.9}}$$

（参考：全国）

$$\{ (33.8\% \times 2.07 \text{ 人}) + (66.2\% \times 89.4\% \times 2.12 \text{ 人}) \} \times 0.938 \doteq 1.8$$

「平成 22 年国勢調査」「第 14 回（平成 22 年）出生動向調査 I、II」の結果による

●富山県は全国に比べ、未婚者の結婚意志は高いものの、理想の子ども数が少ない

《少子化・人口減少対策に必要な施策・参考集計》

少子化・人口減少対策として、必要だと考える施策について多くの意見をいただいた。それらの意見の傾向をみるため、意見に含まれる内容を項目に分けて集計した。年代等による意見の傾向を見たものが次頁の図表である。なお集計は、一人の意見の中に複数の項目が含まれる「複数回答」によるものであり、合計は100%を超える。

各項目の主な意見は次のとおり。

- ・ **子育て世帯の経済的負担の軽減**には、「医療費無料の年齢を上げる」「保育料をもっと安くしてほしい」「子どもの数が多くなると、経済的な面で負担も大きくなるということが一番の不安材料だと思う」など
- ・ **働く場の確保と理解**には、「子供を産んだ後も仕事を続けられるような環境の整備」「職場での、子育て・出産に対する十分な理解、協力、雰囲気づくり」「子供がいても働きやすい環境を作る」「男女とも取得しやすいように育児休業・時短勤務等の環境を整えること」「子育て世代が安定して収入を得られるような政策」「若年層の雇用対策が大切だと思う」など
- ・ **保育・学童等の充実**には、「保育園、幼稚園の預かり時間の延長」「学童の充実。学童の定員や時間について見直し、整備する必要がある」「小学校クライシスと言われる、新1年生、4年生問題の改善。学童保育の拡大」「会社に託児所をもっともうけたりして、働きながら育児が両立できる環境づくり」など
- ・ **医療の充実と支援**には、「産婦人科を増やす。産婦人科が少ないし、忙しそう。産む場所の選択がほしい」「富山県の不妊治療の助成対象となっている病院が少ないと思う」「一人目ができても、二人目がなかなかできないこともあるので、不妊治療の助成金をふやしてほしい」「子どもが欲しくても出来ない、出来にくい人への支援をもっと充実してほしい」など
- ・ **若者の結婚・出産への意識の醸成**には、「独身どうしの出会いの場など、結婚って良いものだと思う地域作りを希望する」「子育て、子どもをもつ喜びについて思春期にもっと教えてあげてほしい」「未婚男女が結婚しやすい、したくなる地域・環境（結婚した時、家を建てるときの補助金、優遇など）」「富山県で子育てしたいという気持ちを持つ人が増えることが前提だと思うので、出産・子育てのしやすい環境作りも大事である」「未婚の人が結婚し、子どもを持てるように男女の出会いの場をもうける」「若者にとって魅力ある、県外に出ていっても、戻ってきたくなくなるようなまちづくり」など

【少子化・人口減少対策に必要な施策 年齢・結婚経験別】

(上段:度数、下段:%) 複数回答

		合計	経済的負担の軽減	子育て世帯の充実	保育・学童等の充実	社会の形成しやすい	働く場の確保と理解	男性の働き方の見直し	若者の結婚・出産への意識の醸成	医療の充実と支援	施策の積極的な告知	その他
20歳～39歳		483 100.0	180 37.3	124 25.7	94 19.5	172 35.6	26 5.4	114 23.6	61 12.6	15 3.1	38 7.9	
20歳～34歳		300 100.0	114 38.0	74 24.7	57 19.0	112 37.3	17 5.7	68 22.7	34 11.3	12 4.0	25 8.3	
年齢	20歳～24歳	66 100.0	20 30.3	10 15.2	12 18.2	24 36.4	5 7.6	20 30.3	3 4.5	3 4.5	8 12.1	
	25歳～29歳	90 100.0	35 38.9	21 23.3	12 13.3	37 41.1	7 7.8	21 23.3	10 11.1	5 5.6	6 6.7	
	30歳～34歳	144 100.0	59 41.0	43 29.9	33 22.9	51 35.4	5 3.5	27 18.8	21 14.6	4 2.8	11 7.6	
	35歳～39歳	183 100.0	66 36.1	50 27.3	37 20.2	60 32.8	9 4.9	46 25.1	27 14.8	3 1.6	13 7.1	
結婚経験	未婚	150 100.0	39 26.0	19 12.7	25 16.7	59 39.3	7 4.7	52 34.7	9 6.0	8 5.3	15 10.0	
	既婚	316 100.0	135 42.7	101 32.0	63 19.9	107 33.9	17 5.4	59 18.7	50 15.8	7 2.2	21 6.6	
	離別・死別	17 100.0	6 35.3	4 23.5	6 35.3	6 35.3	2 11.8	3 17.6	2 11.8	-	2 11.8	

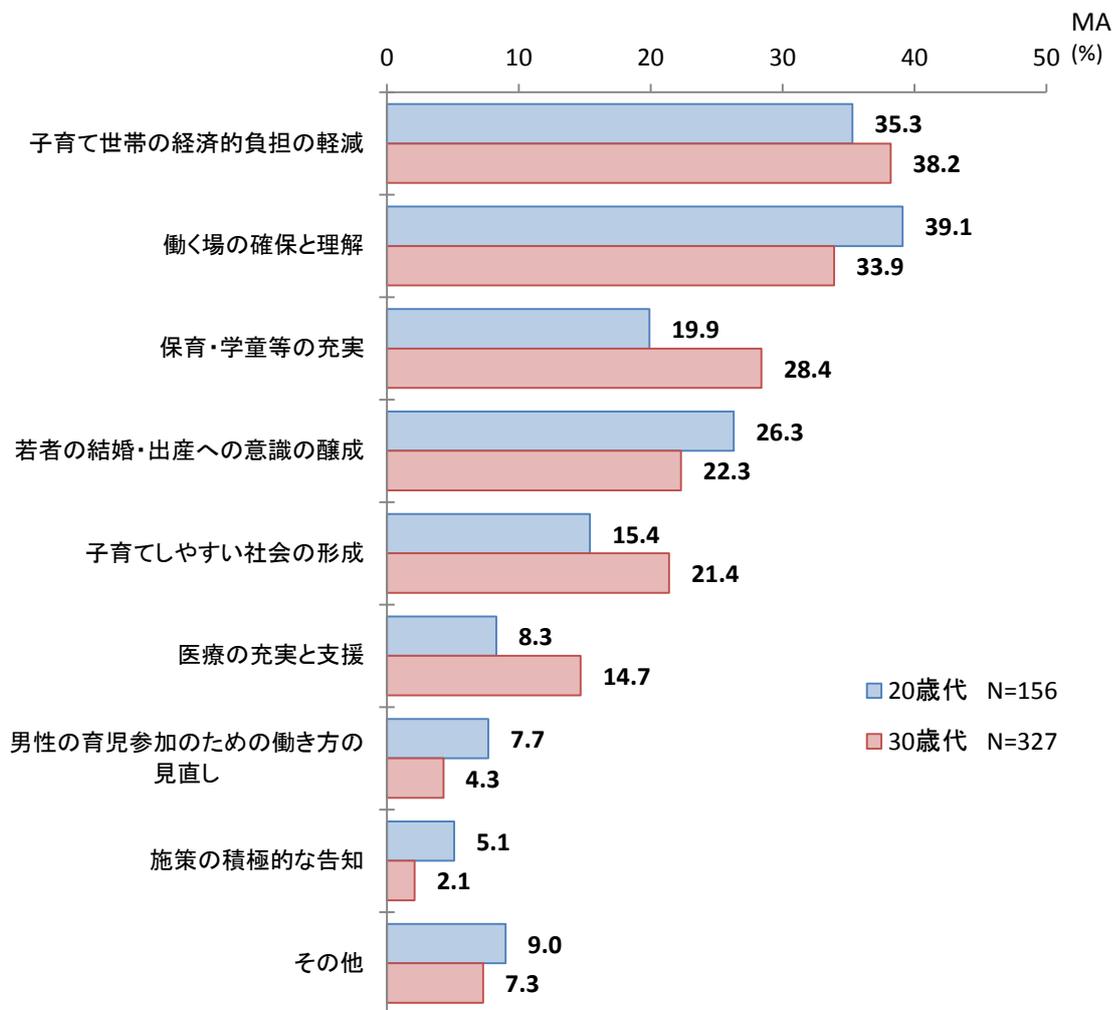
【少子化・人口減少対策に必要な施策 既婚者の理想と実際の子ども数の違い別】

(上段:度数、下段:%) 複数回答

		合計	経済的負担の軽減	子育て世帯の充実	保育・学童等の充実	社会の形成しやすい	働く場の確保と理解	男性の働き方の見直し	若者の結婚・出産への意識の醸成	医療の充実と支援	施策の積極的な告知	その他
全体		316 100.0	135 42.7	101 32.0	63 19.9	107 33.9	17 5.4	59 18.7	50 15.8	7 2.2	21 6.6	
理想と実際の違い	理想=実際	151 100.0	56 37.1	42 27.8	33 21.9	52 34.4	7 4.6	30 19.9	21 13.9	6 4.0	9 6.0	
	理想>実際	146 100.0	70 47.9	49 33.6	27 18.5	52 35.6	9 6.2	29 19.9	24 16.4	1 0.7	11 7.5	
	理想<実際	10 100.0	5 50.0	6 60.0	2 20.0	3 30.0	1 10.0	-	2 20.0	-	-	
	その他	7 100.0	3 42.9	3 42.9	1 14.3	-	-	-	-	2 28.6	-	1 14.3

いただいた意見を、20歳代と30歳代の年代に分けて比較した。20歳代、30歳代で割合に差がある意見として、30歳代では「保育・学童等の充実」「医療の充実と支援」が高く、20歳代では「働く場の確保と理解」「若者の結婚・出産への意識の醸成」が若干高い。

【少子化・人口減少対策に必要な施策 年代別】



自由記入の意見は多岐にわたり、その内容から下表の細項目に整理し、集約した。

集計項目	細項目
子育て世帯の経済的負担の軽減	1 子どもの医療費の負担軽減、無料化 2 保育料、教育費の負担軽減 3 児童手当等の増額 4 出産祝い金等の支給 5 受給資格、対象年齢の拡大 6 その他の経済的負担の軽減
保育・学童等の充実	7 保育所・学童保育の整備 8 体調不良児の対応
子育てしやすい社会の形成	9 子どもの遊び場の確保 10 子連れ外出しやすい環境 11 社会的に子育てしやすい環境 12 地域や周囲の子育てに対する理解
働く場の確保と理解	13 仕事と子育て両立支援 14 子育てしながら働く事への会社の理解 15 女性の就労支援 16 安定した収入 17 働く場の確保
男性の育児参加のための 働き方の見直し	18 夫が会社を休みやすくなる制度 19 父親が出産・子育てをサポートする体制 20 男性の子育てに対する意識改革 21 男性が育児休業することへの職場の理解
若者の結婚・出産への意識の醸成	22 結婚や子供を持つことの良さを伝える 23 若いころからの妊娠・出産についての教育 24 魅力あるまちづくり 25 若者を町に増やす対策 26 婚活支援
医療の充実と支援	27 不妊治療に対する支援や理解 28 不妊治療費助成の充実 29 産婦人科・小児科を増やす
施策の積極的な告知	30 制度のわかりやすい告知 31 早い時期からの制度や助成の周知
その他	32 その他の意見

使用した調査票

結婚と出産に関する意識調査

● 以下の設問について、該当する項目の番号にそれぞれ1つ○をつけてください。

問1 あなたの年齢をお答えください。(平成26年12月1日現在)

1. 20歳～24歳
2. 25歳～29歳
3. 30歳～34歳
4. 35歳～39歳

問2 あなたは現在どちらにお住まいですか。市町村名をご記入ください。

()

問3 あなたの結婚経験についてお答えください。

1. 未婚
2. 既婚
3. 離別・死別



問3-1 「2. 既婚」と答えた方にお尋ねします。ご夫婦の初再婚の別をお答えください。

「あなたについて」⇨ 1. 初婚 2. 離婚後再婚 3. 死別後再婚

「あなたの夫について」⇨ 1. 初婚 2. 離婚後再婚 3. 死別後再婚

問4 問3で「2. 既婚」と答えた方にお尋ねします。

あなた方ご夫婦にとって、理想的な子ども数は何人ですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 1人
2. 2人
3. 3人
4. 4人
5. 5人以上 (人)
6. 子どもはいらない

問5 問3で「2. 既婚」と答えた方にお尋ねします。

あなた方ご夫婦が実際に持つつもりの子ども数は何人ですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 1人
2. 2人
3. 3人
4. 4人
5. 5人以上 (人)
6. 子どもはいらない

問6 問3で「1. 未婚 または 3. 離別・死別」と答えた方にお尋ねします。

あなたは、子どもは何人くらいほしいですか。あてはまる番号に○をつけてください。

1. 1人
2. 2人
3. 3人
4. 4人
5. 5人以上 (人)
6. 子どもはいらない

問7 問3で「1. 未婚 または 3. 離別・死別」と答えた方にお尋ねします。

自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。

1. いずれ結婚するつもり
2. 一生結婚するつもりはない

問8 今後、富山県が少子化・人口減少対策に取り組むにあたり、「出生にかかる目標指標」を設定することについて、あなたはどのように思われますか。あなたの考えに最も近いものに1つ○をつけてください。

1. 目標出生数を設定する
2. 目標出生率を設定する
3. 県民の希望出生率^{*}を設定する
4. 指標を設ける必要はない

■目標設定について

結婚や出産は、個人の自由が最優先されるべきことです。しかし、県が少子化・人口減少対策に取り組むにあたり、目標指標を設定することで施策の進捗状況が分かりやすいとも考えられます。みなさまのご意見をお聞かせください。

■希望出生率^{*}について

県民の希望が叶った場合の出生率として下記のとおり考えます。

希望出生率＝

(既婚者割合×予定子ども数＋未婚者割合×未婚結婚希望割合×理想子ども数)×離別等効果

問9 少子化・人口減少対策として、どのような施策が必要だとお考えですか。自由にご記入ください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

參考資料

(自由意見)

【人口減少・少子化対策として必要だと考える施策（自由記入）】

◇未婚（離別・死別 含む） 20歳～24歳
子育て支援（保育所、職場の協力）、女性が働きやすい環境を作ることが大切だと思います
単純に考えたら、少子化等は県民性が邪魔していると思う。固い考え、偏見が多い。地域、社会、家庭、様々な所で、デキ婚、離婚に対しての根強い見方が原因だと思う
富山県は企業が少ない。富山県は全国の人達に知られていない。富山県は高齢者が多い。富山県の若者は県外へ出て行く。若者達をよべるような何かが必要なのでは
子供を産んでも、あずける親が、親の親の面倒をみなくてはいけないので、簡単に出産することが出来ない為、周囲の環境を整えてほしい
富山県の子育て支援は手厚いと聞いたことがあります、それを妊娠や出産・子育てに関わる以前から知っている女性は少ないのではないのでしょうか。CM等での漠然としたPRよりも、中学校や高校、大学、企業などへ赴き、具体的にどのような制度があり、どのような助成が受けられるのか等を、早い段階から周知した方がよいのではないのでしょうか
学生結婚・出産という意識を変える
子供がいても、働ける環境作り。子供を預けられる場所が充実しているといいなと思います
働くようになり、さらには増税で8%になり、将来について、結婚後の経済について、考えると、子どもにかかるお金に心配になる。県独自の支援ができるとより子育てしやすくなるのではないかと思います
「富山県で子育てしたい」という気持ちを持つ人が増えることが前提だと思うので、出産・子育てのしやすい環境作りも大事だと思いますが、小中高等学校での教育を通して、富山県についてよく知り、子供たちに富山県を好きになってもらうことも大切だと思います。そして、県外に出ても富山県に帰ってきたくなるような、県外の人にも自慢したくなるような、環境（町、交通、職場、地域など）だと思う人が増えるといいなと思います
子育てを行う時の支援をより充実させた方が良いと思います（育児のために親が社会で働きづらいつかを感じないような）
知人が支援を受けたくて市役所に行った際、条件は満たされていたはずなのに（認知されていないなど）支援を受けられませんでした。後日、違う方に相談したら、次回から支援をしていただけることになり、安心したそうなのですが、少しもやもやした気持ちが残ったようです。子育てが安心してできる環境づくりをお願いしたいです。他の県にいる方が子育てをしていると使えるカードを持っていて、お店で割引してもらえたりするようなので、そういう支援があると良いと思います
若い人にとって住みやすい町づくり。子育て支援
女性が妊娠・出産すると働きたくても働きづらい状況になります。男性1人の経済力でも生活していけるような支援があればいいと思います
子育て世代が安定して収入を得られるような政策を希望します

◇未婚（離別・死別 含む） 20歳～24歳
住みよい町づくり。例えば、バス・電車の本数を増やしたり、交通の便を良くしたりと。スーパーやコンビニを街にではなく、街と離れている地域に増やすなど。自然豊かで食も美味だが、そんな住みよい町づくりが必要だと思います
子供を育てるには、大変養育費・教育費がかかる。そこで、子供一人につき、補助金を義務教育終了まで今までより多く出していくことが大切だと考える（専業主婦をしたくても、働かなくては子供を育てられない現状です）。未婚の人の割合も以前より多くなっているため、出会いの場をあっせんする等、結婚できる環境を整えればよいと思う
企業への指導（男女とも取得しやすいように育児休業・時短勤務等の環境を整えること。マタニティ・ハラスメントなどを防止するための社員向けのミーティング。中小企業、サービス業、派遣社員にも適用されるように）。結婚を促進するためのイベント（出会いの場となるようなもの。結婚後の生活やお金、老後のことなど、ライフプランをイメージするきっかけになるようなもの）、補助金等制度。保育士の人材確保、時間外でも子どもを預けられるようなシッター業等の増加。出産に関するセミナー、イベント（子供がほしくない人向け、子どもがほしい人向け、「お金がかかる」等の先入観を取り払えるようなもの）。ツイッター、フェイスブック、フリーペーパーなど、若者に身近な媒体を使った情報発信
安心して出産ができる環境づくり（分娩施設の確保など）。妊娠・出産・子育てを取りまく環境やサービスの地域間格差の縮小
目標指数を設ける前に、もっと子どもを育てやすい環境を作るべきだと思う
補助金で出生率を上げてダメ。子供の教育のクオリティを高めることが大切。なので、そういった教育（真人間にさせる）に関心を持ち専念すべき。ただ人口を増やしても（子供を増加させる）きちんと育たなかったら、それこそ意味がない
少子高齢化は、富山県のみならず日本全体の大きな問題だと思います。少子高齢化として重く捉えられているにも関わらず、大きな改善はなされていないように感じます。富山県が積極的に少子化問題の改善を試みることはとても重要だと思いますので、この調査を通して、はっきりと富山県の「出生にかかる目標指標」を設定し、県民の意識を変えていただきたいと思います
子供がいても、女性が働きやすい環境づくり
妊娠・出産に関わるお金を半分以上 県や市が負担する。不妊症に関しても、県や市から補助金を出す
若者が県外に出ていく...県内の活性化。戻ってきたくなくなるようなまちづくり。公共交通機関をもっと充実させる。LRT、バスのルートを拡大する。非正規雇用者の増加→経済的な漠然とした不安があるため、結婚・出産に現実味がない→所得に合わせた保育費用の補助があるとありがたいです
「富山は観光どこがいい？」と訊かれても、身近に立ち寄れるところが少ない。同世代はみんな都会に出ていてさびしいので、富山にも若者が集まれるような施設があると、人口減少が少しおさまると思う

◇未婚（離別・死別 含む） 20歳～24歳

女性、男性共に子育てのために休暇をとることに負い目を感じない環境作り。育児休暇・産休から復職する際にスムーズにことが進むように。女性が家事全般を行うという前提のもとで女性の仕事を男性と同程度にすることはおかしいので、男性も家事・育児参加ができるように定時で上げられるようにする。休暇の制度を利用しても、嫌味を言われたり渋い顔をされたりしない。社員、特に上層部の老年～壮年層への意識改革（有休をつかうなんてとんでもない、という人がまだまだいる）。子供を産んでも大丈夫、生活していけると思えるだけの給料、社会資源（制度、人的資源、民間のサービスなど）の豊富さ

富山にたくさん人が集まるように（住みたくなるように）しなければいけないと思う

町コンを開催する。学校・大学の部活動のようなものに気軽に参加できる。合コンは行きづらいので、一般の人も行くような大きなイベントや有名画家の美術展があったら嬉しいです

婚活イベントの充実。企業の福利厚生の充実。出産助成金、子育て支援金の増加

保育料の援助

目標の出生数や出生率を設定することも必要であるかもしれないが、第一には、子どもを育てやすくなるような環境づくりが必要であると思う

助成金の金額を多くする（子供関係）。富山県内に本社を持つ企業を増やす

子どもを産みやすい、そして育てやすい社会にするために、財政支援も大切だが雇用環境（労働時間（短縮、フレキシブル）、賃金アップなど）をもっと改善していく必要があると思う。社会全体で子どもを育てていくという意識をもつことも大切

男性の育児・家事に対する協力。また、関心をもっともってもらえるようにしてほしい

子どもを産んでも安心できる環境をつくる。子どもが病気になってもあずかってくれる施設をつくったり、休んでもよい職場づくりをしたりする

補助金を出すなど

相手の方がいないと少子化・人口減少はくい止めることは無理。かといって、合コンや街コンとかもイマイチ。まず、県外に出てしまう人を少なくしないとキビしいと思う。金沢駅みたいに、県内に1つくらい都会っばい、ショッピングモールが近くにある駅がほしい

出産したい子供の数通り出産できる環境にすれば良いと思います。多分、お金の面などで色々な対策をなされていることと思いますが、知っている人が少ないのではないのでしょうか。出産した際に説明書を配布したり、役所で説明を行なったりしたらいいかなと思いました（既にしていたらすみません。未婚なので）

働きながらも子どもを育てることができるという自信がほしい。施設うんぬんよりも地域のつながりがほしい

2人以上産んだ人は、子どもにかかるお金が半分になる

子供を「育てやすい町」を作る。子供を育てるにはどうしてもお金がかかるので、その援助を手厚く。そしたら、富山県民じゃなくても、富山に引っ越して来てくれるかも！！

◇未婚（離別・死別 含む） 20歳～24歳

なぜ子供を産まないか、それは育てるのにお金がかかりすぎることです。今、少子化対策として小さい時の医療費だとか、子供にお金を給付していますが、小さい時はそんなにお金はかからないと思います。高校、大学など、義務教育が終わってからが大変です。誰にでも何でも与えるのではなく、必要な人にちゃんと給付ができるシステムにかえるべきです。子供2人大学へやることができない＝子供は最小でいいという結果です。今の考え方はおかしいです

ただ結婚・出産を推奨するのではなく、親としての自覚や子育ての知識を身につけられるような場が必要だと思います。最近ニュースで親が虐待で子を死なせてしまう事件をよく耳にします。そうならないようにするためにも、産まれるまででなく子供が産まれた後にこそ、策を講じるべきではないでしょうか

収入の安定。出会いの場の創出

産みなさい、働きなさい、出世しなさい。女性にばかり頼らず、男性がちゃんと女・子供を養えることを考えなくては、いつまで経っても出生率は上がらないと思う。育メンを育てるより、まず男を育てることを考えるべき

子育てしながら働きやすい環境が整っていることが、一番うれしいです。体調を崩した子どもを預けられることや、自宅近くの保育所などに必ず入れる、なども重要だと思います

結婚について相談できる場所が身近に欲しい

女性が働き、子育てしやすい職場環境を推進する施策

結婚し子育てをすることに不安を感じる人は、私たちの世代に少なからずいます。特に女性にとって「仕事との両立は可能か」「子育てする夫婦が子育てしやすい働き方ができるよう、社会が応援してくれるのか」など。行政が指標を設定する時、「女性だから産むのが当然」という考え方となりがちです。少子化、人口減少対策に近道はありません。行政が子育てなどの福祉にきちんと予算をつけて、子供が保育園（幼稚園）から大学まで（できれば無償）安心して子供が行けることや女性が輝いて働けるようにすべきです。そのためには、男性も子育てに参加しやすい労働環境でないと難しい。若者の非正規化もすすんでいるとききます。十分な賃金がなければ子育てを安心してできません。出生率の高い国々では、女性がたとえ非正規で働いても十分に子育てができるようにと、最低賃金を高水準にしている、そのための補助を行政がしています。新幹線も若者が入るよりも出ていってしまうことの原因の1つにもなりかねないと思います。もっと教育政策を大切にしてください。少人数クラスにして子ども1人ひとりを丁寧に育ててください。十分に子育てすることができずに困っている親（若い夫婦）が友人の中にもいます。彼らに社会が寄り添うべきです。社会に大切に育てられた子どもは社会を大切にします。今のように自己責任を押し付ける政治では若者の心は離れてしまいます。富山を大切にしたいという思いは、富山という行政がしっかり1人ひとりが生まれて死ぬまで大切にすることから生まれます。富山を日本の中でも一番すてきな輝く町にするためにもすばらしい行政であることを心から祈っています

目標設定を行ったり、子育て支援を充実させたりすることです

◇未婚（離別・死別 含む） 20歳～24歳
現金で支援するという形でなく、母子寮みたいな、同じ境遇の人達が助け合うという場所があると良いと思う
子育てをする上でかかる負担をできるだけ少なくした方が、一家族あたりの出生数が増加すると思います（例 学費）
若年結婚に対する福利厚生を充実させる。3世帯での同居を進めるような政策をつくる
1 才未満の子供を預かってくれる保育園の増設が必要。仕事を辞めて子育てする事に対し、不安を抱く若い女性が多い
現状、原因を把握したうえで子供を持つ家族の声を反映させた施策が必要だと思います
「子ども手当」のような、子どもが産まれた家庭にその家庭の所得水準に合わせた補助。保育園に入所させる子どもの家庭に対する手当。2人目、3人目と増額する。Uターン就職の推進
女性が結婚、出産しても働きやすい職場の雇用環境づくりや、雰囲気づくりができるような施策

◇未婚（離別・死別 含む） 25歳～29歳
私の周囲には相性の男性ほとんどいません。まずは恋の相手を紹介してください。結婚したら子ども増加します。よろしくお願いいたします
空家を移住者（若者）に安く提供するなど、「ここに住むなら、子供がいても生活していける」くらいの感覚を若者に思わせるような魅力的な施策。他の地域と差をつけなければ、人は離れていくばかり
正直、まわりに結婚したいと思う異性がない。いても結婚されていたり、年齢が上すぎたり、私と同年代の方はあまり結婚（恋愛）に積極的ではない。もし子供を増やすだけが目的なら、結婚しなくても子供を育てられる世の中にならなければ無理だと思う。未婚でも子供がほしい人はいっぱいいるし、そういう環境をつくってもらえれば子どもは増えると思う
子育て支援の充実、出産費用の補助など。共働きを希望する方も多いので不安を減らせるように子供をのびのびと育てられる良い県だと思います。手当金やサービスもたくさんあると思いますが、何が受けられるのかを知りません。この窓口に行けば教えてもらえるよ、とか、こういうサービスがあるから活用してね、というセミナーなど、広告をうってPRしてほしいです。新聞やチラシ、ショッピングセンターにポスターでもいいです。「サポートしているよ！」っていうアピールが目につくと、もっと安心できると思います
女性中心の企業は、なかなか人手も足りず婚期を見送りがちになるので、何らかの支援があるとうれしい。また、県外から結婚相手を見つけた場合の就職支援があると、相手を富山に移住させる説得材料になる
企業の女性に対する待遇をよくする。産休を1年間もらえずに（半年とかで）復帰する人が多い。子育てに経済的援助をしてほしい。子どもが病気になったとき（学級閉鎖とか）休める親はよいが、休めない親は、子どもを預ける場所を提供してほしい（富山は共働きが多いので）
若者が介護をしなくてもよい社会。老老介護がしやすい。高齢者でも出来る仕事を増やす。積極的な採用を促す。多様化する。自分の子供が将来、介護要員となるのはかわいそう。それなら産まないほうがいい。老人が最期まで楽しく働け、自分自身の健康管理ができる社会が理想です
子どもがいても働きやすく、子ども手当等の充実。安心できる格安又は無料の託児所や保育所。どうしても金銭面の問題から少子化につながっていると思うので、県などがもっと支援を、本気で対策するならば増やすべきだと思う
若者が富山で働きたい、暮らしたいと思う、魅力やきっかけづくり。小さい頃から地元のよさを感じ、ずっとこの地で暮らしたいと思えるような環境づくり。首都圏の若者にも富山で働き暮らしてもらえるようPRする。PRがへた。もっとあつかましいくらいにPRしてもよいと思う。子どもを産み育てやすい環境づくりをもっと徹底して行く（若い親でも安心して子育てしていけるような）。共働きしながらでも子どもを3人以上産み育てやすくする。若い頃から将来設計を立てて、目標をもっていけるような仕組み
会社の育児休暇の延長（2～3年）。保育所の時間延長・低価格化。家族手当、子ども手当

◇未婚（離別・死別 含む） 25歳～29歳
若い人を県に呼ぶ。県外に行った学生に対して、Uターン就職をすすめる。交通の便を良くする。育児のサポートの充実。知らない人も多いと思うので、もっとひろく宣伝する
出産や子育て費用の負担があると思いますが、さらに充実するとうれしくかもです
各家庭へ子1人〇円のような現金給付よりも、確実に子どもに恩恵が渡るものが良いと思う（例えば給食費無料とか）
会社に託児所をもうける。残業が多い時期には託児所で子供を預かってもらえる時間を増やしてもらえたら、将来も安心して子供を産める。子供産むことを考えられる。仕事もできる。続けられる。残業の負担の軽減、仕事の負担の軽減。会社・部署への人員の補充がないため、それが仕事の負担となり、結婚・出産を考えられない状況に追い込んでいます。産休を取る制度が会社にあっても、今もこれからも人員不足、残業の負担を考えると、出産を考えたくても難しい状況にあると思っています
正直、少子化・人口減少対策と言っていますが、結婚したくてもできない（出会いがない etc.）人もいるし、結婚していても子供ができない、欲しくてもできない体の人もあると思うから仕方ないことだとも思います。だから、まず結婚につながるために出会いの場をもっと作ってあげたり、子供ができたら、出産費や子育てにかかるお金などをもっともっと支援したり、そういうことから始めていけばいいのではないかなと思います
子供のいじめ、格差社会に対する施策が必要。富山県に働ける企業が必要
未婚女性・男性の出会い場がほしい。それによって既婚することによって出生があり、人口少子化施策だと思う
子どもができて、やめなくてよい職場が少なすぎる
子育て家庭への支援（金銭面）をもっと増やしたり、子育てに関する職場の援助を増やしたりして、産みたいけれど産めないということのないようにしていくべきだと思う
保育園無償化（給食費のみ支払う）。医療費、高校生までの補助・減額。税金の負担減
働き方の多様化（在宅ワークの紹介や、女性が働きやすい会社の詳細など）。どんな制度ができて、周知をわかりやすく行ってほしい
お金がないと子育てはおろか、出産も出来ないと思う。というか、そもそも生活も出来ないと思う。なので、就業、就職支援を手厚くする必要があると思う。県内で出来る仕事が少ないから都会に出ていくし、出産・子育てするのに夫婦共働きが前提になっているので、出産・子育てがしにくいのではと思う（いっそのこと、夫婦共働き前提で、それ向けの子育て支援を厚くするのも良いとも思う。個人的に夫婦が共働きの家庭向けの施策が少ないのが気になっているので）
子どもを持つことで考えられるデメリットを把握し、それを解消していくための手立てを打ち出していくこと。またメリットというか、出産・育児・子供を持つことの素晴らしさを伝えることも必要かもしれない。逆に、子供を持ちたくない、持てない理由も、具体的に把握していることが必要だと思う

◇未婚（離別・死別 含む） 25歳～29歳
配偶者特別控除を失くさないでほしい。産休、育児休暇をもっととりやすい環境にしてほしい。フレックスタイムを中小企業でも導入してほしい。このアンケートを無駄にならないようにしてもらえると嬉しいです
目標の出生数・出生率を設定するよりも、今後子供が減少し続けると、日本、富山県にどのような不利益をもたらすかを具体的に示してほしい
女性が子育てをしながら働くための環境（例 保育園など）がととのっていること。また、そのための補助。まず、結婚しなくても良いという考えになる人にとっては、結婚したいと思えるような何かきっかけがあると良いのでは？
目標指標を設定することで、確かに施策の進捗状況は分かりやすくなるかもしれませんが、しかし、まわりには不妊で苦しんでいる人が多くいます。指標を設けることで、さらに辛くなる夫婦がいることを想像してほしいです。今、子どもを育てるためには結構な額のお金が必要ときいています。経済的理由で子どもを一人または二人しかつくりたくない人もいます。もっと補助や福祉を充実させて、経済的に若い夫婦が子育てに不安を持たなくていい社会にする必要があると考えます。今は女性も社会に出ています、マタハラや出産を機に職場を辞めなければならない会社もあるようです。子供ができた後も気持ちよく働ける環境をつくっていく必要がある。結婚する人を増やすよう、仕事をはやくきりあげ遊びに出かける日を職場がつくる。経済発展一本で進んできたが、もう少し違う価値を提示していく
出産時の祝い金、補助金。保育所の設備。結婚したい人への補助。富山に住むこと、富山で結婚することのメリットを示す。特に、今のままでは感じない（分からない）
若い人が働きやすい環境づくり
子どもはほしいと思うが、仕事が忙しく異性と出会う機会がないのが現状。まず、若者に出会いの場を、県がもっと提供すべきだと思う
子供を預けられる施設の増加や保障の充実。結婚したくても金銭的余裕がない人も多くいると思うので、雇用の充実も必要だと思います
私は未婚者ですが、同年代の既婚の方（友人、同僚など）の話を聞くと、さずからないから子供ができない以外に、子供ができて養っていけないかもと考えていたり、産休・育休がとりにくい職場の雰囲気（制度はある）があったり、子供をほしがりにくい環境があるのでは、と思います。制度を利用しやすくできれば良いと思います。私は街コンなどには参加したことが無いのですが、あれは婚活より恋活なのだと思うので、お見合会などあればと思います
総合的に楽しめる、アミューズメント、ショッピング、温泉（営業時間、駐車場が混まない事、広くわかりやすい）。利用特典があり、リピートしたくなる様なカードシステムやポイント券
子供を持って現在の職を続けることが困難になる等、問題点が多くあるので、持てる環境、育てやすく働きやすい社会になる必要が大事だと思います
施策を作っても、もっと知らせてもらえなければ意味がない

◇未婚（離別・死別 含む） 25歳～29歳
同年代の子どもを持つ親同士が交流できる場をつくる。男性が育児に積極的に関わることを促す施策
不妊治療（子どもがほしくても出来ない人が多い）制度拡大
自治体によるサービス向上（子どもの医療費無料など）。街中でのサービス向上（割引など）
会社で産休・育休をとりやすいようにする。また、復帰しやすいようなプログラム作り
若い世代への給料をふやすこと。子育て世代へ住宅手当等を作る。若い世代が地域に受け入れやすいよう、近所の意地悪なおばさんをなくしていくこと。村八分をなくすこと
夫のみの給料で生活できないため、働かないといけない。子供が増えるごとに費用が増えるので、希望は3人産みたいが、現実には2人もしくは1人になってしまいそう。復帰する際にも、今の会社では、時間が長いので続けることは厳しい。とにかく、子育て、仕事のバランスが難しいです。保育所の料金が低ければ、3人産んで働き続けられることが理想です。子供を育てるのにお金がかかれば産む人も増えると思います
子どもを安心して育てることができる町づくり。環境（職場環境も）づくり。育休がたくさん取れるとありがたい。出産しても（子育てもしたいが）仕事を続けたいので、子どもを預けられる保育所などの充実。確か、福井県は子どもが産まれると補助金か何かが出ると聞いたことがある。そういった政策もあると、意識づくりにはなると思う
東京のように大都会である必要はないが、自分の子供には不便な生活をさせたくないという思いがある。新幹線が通り、利便性ははるかに向上するが、「富山県」全体がもっと活性化しなければいけない。少子化・人口減少を踏みとどめる為には、若者の流出を防ぐ。その為には若者のニーズに少し応えてほしい
子どもがいても働きやすい環境づくり
結婚にあたり、所得の安定（正社員登用推進）。出産にあたり、就業スタイルの多様化を認める企業の増加と推進。産休育休だけでなく、育児中の女性が無理なく、ストレスを感じることなく働ける環境づくり。企業自身が将来性を見すえ、子どものいる社会と子育てをしながら働ける環境を考える。自治体は、それを進められるよう、モデル企業の指定や補助金の設定を行う
脱車社会、地下交通網の発達。新婚世帯への補助
出生にかかる目標指標という数の設定を設けることよりも県からの援助があれば次第に少子化・人口減少対策になると思う。富山県で子供を育てれば、よりよく生活出来るというような、他県とは違う所があればいいと思う

◇未婚（離別・死別 含む） 30歳～34歳
個人の自由なので、とくに施策はないと思う
働きやすい職場。妊婦も妊婦をサポートする周りも負担のない体制を作っていってほしい
未婚の人が結婚したくなるような環境作りをしてほしい（出会いの機会を自治体で演出するなど）。結婚後、子育て支援などの制度を充実させてほしい
県の催し物で婚活パーティーみたいのがあればいいと思う
子供を産んだ後も仕事を続けられるような環境の整備を整える（安心して生活できるような環境にしなければ、結婚にも出産にもつながらないと思うので）
「子育てにお金がかからない県」くらいの気合いの入った、明確でわかりやすい施策とその実行
景気が良くなり、子どもにかかる負担金もたくさん補助が出ること。職場の環境が子育てに理解があること。配慮してもらえる雰囲気であること。未婚男女が結婚しやすい、したくなる地域・環境（結婚した時、家を建てるときの補助金、優遇など）
誰も傷つかないような、ステキなキャッチコピー。夫婦や女性（シングルマザー）の方々がこの街で子育てをしたくなるような、どの県にも負けない子育て支援の強化が必要。子供が楽しめるイベント施設を増やす
男性の方が、もう少し収入があって安心して生活できると、もっと結婚に関心を持つことが出来ると思う
まず結婚をさせる。結婚→出産の順なので。未婚でも子どもを産みやすいように、手当て、支援があれば良いと思う
県内に限らず、国全体において、出産に関する正しい知識が浸透していないように思います。まず教育の場面で、人間（女性）は歳をとったら子供が出来にくくなり、産めなくなる動物であるということを、男女ともにしっかり教えてほしいです。また、男女ともに、働きながら、産んで、育てるという人生設計を早めに意識できるようなとり組み（大学生や新社会人へ向けて、先輩が具体例を語る、など）もあると良いのではないかと思います
夫婦共働きでないと、なかなか満足のいく子育てができない時代ですが、会社や社会全体において、まだ、女性が結婚しても未婚のときと同じように働けたり、妊娠・出産後に仕事復帰できる環境でなかったりする気がします。仕事でキャリアを積んだ人ほど結婚や出産に踏み切れない気がします。形として産休や育休があっても十分に取得できない風潮があったり、復帰後は役職を外されたり。施策も必要ですが、会社や社会全体の理解や協力する体制が必要だと思います
富山県では共働きが多い。子供の面倒をみる環境が整っていないとどちらかをあきらめるしかない。保育・幼育の受入れを充実化させてほしい。あるいはベビーシッター派遣などがあってもよい。小学校でも18:00くらいまであずかってもらえるとよいのではないかと
自分の今の生活に、子供や結婚相手が必要だとは思えない。将来を考える余裕がない。アンケート結果が見たいです
子供がいても働きやすい環境を作る（育児休暇等の制度の充実）

◇未婚（離別・死別 含む） 30歳～34歳
不妊治療に関する助成を充実する。職場での休暇取得ができる環境づくり。小児科医の確保
子どもの医療費を無料にする
子供の教育にお金がかかりすぎる！！母子家庭の待遇が良すぎているため、離婚してもへいきなのかな？
不妊治療費をもっと安くする
住みたいと思える魅力ある町（地域）作り。生活に十分な給与体制
子育てしやすい環境づくりが必要だと思います
一生結婚するつもりがない人がいると思いますが、私のように、結婚願望があっても婚活しても縁に恵まれない人がいると思います。公的、民間、関係なく、結婚願望がある人達のために出会いの場を沢山作ってほしいです。結婚しない限り、少子化問題は続くと思います
子育てのしやすい町づくり。結婚を希望する人達へのイベントの充実
子育て環境をよくする。出産費用の援助をする。義務教育までの医療費をただにする。働く女性が安心できるように、学童保育を充実させる
育児休暇制度を広げ、保育施設を増やし、出産・育児を支援する給付金制度を充実させれば、お金がないから子供が産めないという人が減るのではないかと思います
20～40代の負担を減らし、将来の人生設計をし易い策を希望します。給料や時給が少なく、富山県の経済に元気がないのも不安です
そもそもこのアンケートを女性に限定して送っていること自体疑問に思います。少子化・人口減少対策は女性だけの問題ではなく、男女関係なく県民・国民の問題だからです。だから、男性にもきちんと意見を聞くべきではないでしょうか。県はこの問題、女性だけの問題だと考えているのですか。県の施策なら、まず若者が富山県に定住してもらえるようにすることが必要だと思います。若者がいなければ結婚も出産もないと思うので。子どもを増やすには、やはり子育てしやすい環境が必要だと思いますが、それは補助金とか保育園を増やすという施策もあるが、職場の子育てへの理解・配慮が欠けているように思うので職場の意識改革も必要だと思います。これを進めれば女性の社会進出にもつながるのでは。是非とも富山県には日本のスウェーデンと呼ばれるように頑張ってください。雇用や賃金などいろいろな要素が絡む難しい問題ですが、人口が増え子どもが増え活気ある社会になることを願います
子育て支援についての施策。産み育てやすい環境・制度づくり
小さな子供（乳児だけでなく、幼児も）をつれての駐車場利用には、現在のような障害者、妊婦、赤ちゃん連れ用の駐車スペースの利用も可能にしてほしいです
妊娠してもよいと思える職場環境が必要。妊娠することで泊まり勤務から外れたり、仕事内容が制限されるため、周りの人に迷惑がかかるし、迷惑だと思われたりする。心苦しくて妊活できない

◇未婚（離別・死別 含む） 35歳～39歳
不妊治療の補助金を国や自治体が十分にしてくれたらいいと思います。そして子供がいる家庭に対して、子育て支援をしていく事が大事だと思います
交通の更なる利便性。天候不良時でも子供達が伸びやかに遊べる施設を作ってもらいたい（室内遊技場）
病院に保育施設を（看護師のために）。入院児のための院内保育も大切ですが、ママ スタッフのためにも
子供を産んでメリットがある施策
女性が出産後も働ける様、企業側に法を作ってほしい。そうしないと少子化は止まらない
休日保育や延長保育可能な施設の充実。学童保育施設の充実&保育料をもっと安く
こんなアンケートで理解したつもりになるより前に、実際に出産した人達に要望や改善策を提案するなりしてもらった方が、現実には即した対策ができそう。未婚者がいうのも何だが、1人目を産んだ人が「もう1人産もうかな」と思えるような体制づくりが必要なのではないかと思う。何事も先達を見て、若い世代が出産・子育てのしやすさを予想するのではないかと思うので。実例が「やめた方がいい」とか「大変」とか言うとは尻ごみするだろうから、その層にまず手厚い支援なりが必要だと思う
若者にとって魅力ある街づくり。住みたいと思う街をアンケート調査し、実施
育児休暇、最低1年間は義務化してほしい（中小企業だと難しい）。育休後、同じポジションでの職場復帰を保障してほしい。助成金があるといい。指標は良いとも思ったが、達成できなかった人が卑屈に思うかもしれない
県や市町村が主体となる結婚サポートセンターの様なものが増えれば良いと思う。実際、私も県主催のお見合いイベントで知り合った彼と、結婚に向けてお付き合いしています
結婚して子供を産んでも仕事が続けられるようにすること。子供を預ける場所を作ること
減税
安心して子供を産み、育てられる様、制度を手厚くすること。また、不妊治療への支援する制度を設けること
育児休暇を取りやすい環境。子育てを助けるような社会の仕組み（現代に合った）。でも、そもそも結婚しない人が多いので、価値観から変えないと（教育からの問題）。割と、本当にリミットが近づいてから焦っている人が多い気がする（自分も含め）。子供は大部分の人はいずれ欲しいと思うものだと思うけど、タイミングやきっかけがうまくつかめない人も多い気がする
現在、県の取り組んでおられる出会いを支援する機関ですが、平日のみで、富山市まで行くのは、仕事をしていると少し難しく、利用したくても出来ない状況です。出来れば、高岡市にも利用できる拠点があれば良いと思います。欲を言えば、日曜日には無理だとしても、土曜日（隔週でも）も利用できれば嬉しいです
女性が働きやすい社会にしてほしい

◇未婚（離別・死別 含む） 35歳～39歳

未婚の方が沢山います。出会いの場を作って沢山の人が結婚できたらいいのに

女性が働きやすい環境づくりが必要。子育て支援といっても対策が今ひとつ。時短勤務もあるが、収入は大幅に減るし、時短に対して周囲の反応というか、理解は得られるようで、実際は気兼ねしなければならぬなど、本当に働きやすくなっているように感じる。昔と比較すれば、ずいぶん働きやすくなっているとは思いますが、もう一步踏みこんだ施策がほしいというのが本音です。現代人のわがままかもしれませんが

子供を授かる、産む、育てる、子供が成人になるまで、すべてにお金がかかること。現在の20～30代の年収を考えた時、とても2人以上の子供を育てることは出来ないと思う。3人目の子供を授かって成人にするまでのメリット、割引や手当などを考えたほうがいいと思う。メリット割引、手当が3人目の子に対してではなく、家族全体（一家）がメリットを受けられるような仕組み。手当なのか、減税なのか。たとえば障害者の免税みたいなもの。「富山県で3人目以上を育てるとこんなメリットが」「災害も少ない富山へ引っ越し」「家を建てる」「持ち家率No1」「住みやすい県No1」など、若い世代が「富山県で良かった。」という意識と「富山県に住んでみたい。」と思う環境システムを考えたほうがいいと思います

会社が出産・育児休暇に対して理解するべき。老人に対して保険料負担は2割にするべき。たいした事もないのに病院にきすぎ

仕事との両立と教育費の負担を軽減できる政策。個人の努力では困難な方面への補助

雪が降ってもあそべる所がないので、あれば助かります（子供がのびのび遊べる所）

保育所・幼稚園・学校の無償化。子供が小さいうちは、母親か父親が家にいた方がいいと思っています。どちらかが仕事をしなくても、ちゃんと子供に教育を受けさせ、食べていけるような社会になれば、働く女性も出産を考えるのではないのでしょうか？学校・教育者の質の向上。日本の未来（経済だけではなく、いろいろな問題）

女性が子供を産んでも大丈夫を思う社会にすること。保育所等の充実。社会的地位の保障。男性の意識の改革も必要

産婦人科を増やす。地元では出産できる設備が少なく、待ち時間が長い。出産費用の補助。保育料を補助したり、保育園に入りやすくしたりする。小さな子供がいても、働きやすい職場環境作り。教育費の補助。私は1人で中学生を育てているが、今後の教育費が心配

少子化問題よりも高齢になった時の生活の方が心配である

母親の負担が多すぎ。フルタイムで働いていても、子育て・家事のほとんどは母親がしている。父親はしているつもりでも、まったく軽減されていない。男性の教育も必要であるし、まだまだ社会的にも、女性に冷たいと思うことがある。せっかく3才以上の子どもをもつ母が時短の働き方を選択しても、上の女性が、私たちのころはもっと大変だったと、女性が女性に冷たい。意識改革的な周知がいると思う。一人の努力（母親の）で限界あり

産婦人科など、身近に安心出来る病院が増えれば良い

◇未婚（離別・死別 含む） 35歳～39歳

今の時代、村とちがって子どもにお金をかける家庭がふえているが、どこの家庭も無理してお金をかけて子どもをならいごとなどに行かせている。少子化なら少子化で、子どもにもっとお金を県や市で、少しでもだしてあげれば良いと思う。今の金額では少なく、小・中・高と学校に行くにつれてお金もかかるので親は大変です。離別・死別はとくに大変です。まわりはしらん顔している人が多すぎです。県・市が頑張ってもっと協力してほしいです

2人の娘がいます。本当はもっとたくさん子供がほしかった。産んで育てるかんきょうが日本はまだまだきびしい。保育園の待ち、母子の生活苦、教育費などなど。これじゃあ、ますます産みたくても産めないの、もっと少子化に対する法案をよくしてほしい！！

このような答えの見える意識調査をする前にもっと住みやすい富山県に人が集まる様な町を作る為の具体的な意見を県民に求めるアンケートをするべき。少子化・人口減少問題はこんな指標に左右（影響）される問題ではない。少子化対策 子供出生率を上げられるよう、若者の平均賃金を上げる。社会システムを作る（子供手当、保育園の数等）。周りでは「子供もう1人欲しいがお金がかかるから」との声をよく聞きます。人口減少対策 とやまの町づくり。施設などもっと若者の意見を取り入れるべき。これから市内につくる図書館、ガラス美術館など、何を作っても人が集まらなそうで中途半端。良い例が中心商店街の客層は若者がいない。店舗が年配者向き。増やしたい人口の年齢層をもっと検討すべきだと思う。富山県は若者が遊べる（集まる）場所が少なすぎ。出会いの場がない。利用者数が少なそうな自転車レンタルに税金を使うなら、例えば人口増加している地域と富山駅前間に市電を通した方がよい。1日に数本しか走らないバス。0時前で終わる駅前近辺のみの市電。これでは利用者数、利用目的も限られる

他県にくらべて雪の日はもちろん、天気がい季節がかぎられている富山県にもかかわらず、子供の遊び場が少なすぎます。児童館は時間や年齢の制限があるので、兄弟で遊ばせることもできない。施設は古い。小学生の行き場なし。土地がたくさんあるし、中心街はガラガラなのに。駐車場もお金がかかる（無料はたった1時間）のでネックだと思う。都会のようにポーネルドのような有料の遊び場も、モールにもないし、家でDSをしているしかないという残念な結果になると思います。施設がきれいなら、利用料が少しかかっても利用者はいます。富山人は駐車場にお金を払う価値観はないので、運営に工夫すれば、きちんとした親は利用すると思う。次にできる美術館の上だけでは足りないと思います。こども未来館ぐらいの規模が欲しい。

◇既婚 20歳～24歳

「子どもを産め」と少子化の為言われているが、子どもを産みやすい育てやすい社会でないことが、まず問題ではないでしょうか。任意の予防接種は高いです。だから、予防接種を受けていない子ども周りに沢山います。子どもの命に関わる事です。そういった面での負担を軽減してもらえたら、子どもの健康への不安も少し解消されるので、産み育てやすい社会になり、少子化対策にもつながると思います

子供の教育費の事が心配。親が進学費用をまかなってやれない時は、子供が進学できないのではないかという事が心配で、出産について考えてしまう。自分で望めば進学が可能な社会になるような施策を考えてほしい

子育て支援などで手当を頂いています。とても助かりますが、その手当で予算を考えると税金がたくさんかかってきます。そのせいで増税などをされていては±0です。その他にも、今、私自身保育園について考えています。働きたいのですが、近所の保育園は正社員の両親じゃないと受け入れてもらえないのです。今後も妊娠・出産を考えると、正社員ではなかなか採用して頂けないのが現状です。パートでも受け入れてくれる保育園があれば、女性は妊娠・出産に安心できると思います。こんなことなら子どもはいらなくなってしまう人もいるでしょう

会社に託児所をもっともうけたりして、働きながら育児が両立できる環境づくり

保育園にかかる費用を下げる。子どもを産んでも、会社からの給与や待遇が変わらないように働きかける。派遣社員の場合、子どもができたなら会社を辞めなければいけない(産休などの制度がない)ため、子どもを作ることができない(今現在、私がある状況です)。2人共働きでの収入で、やっと生活しているため、正規社員にならないと子どもが産めない。そのような人に対する子育て助成金などがあればいいと思います

出産祝いみたいなものがあったら、うれしいです。育児手当の額を上げてほしい。出産したときの医療費免除(全額)。子供のできにくい人への医療費への免除

子育てと仕事が両立しやすい政策をしてほしい

子供連れで行ける所を増やす。連れていけない様な所では託児所を作る(無料の)

保育所などの延長保育増加

◇既婚 25歳～29歳
育児手当の増加、教育費の補助増加
育児休暇を取得しやすい環境をつくとともに、休暇中の手当を厚くしてほしい。0歳児でも一緒に外出できる場を増やして欲しい（食事するところ、遊べるところ、コミュニティなど）
職場の理解、育休・時短のとりやすい考え。保育所の充実。保育士の給与が低く、仕事の負担が大きい。私はもと保育士であるが、自分の子をもったことで、核家族では保育士を続けてはいけなく、退職した
「目標」と言われると、何かしなければいけないような、何となくいい気分にならない。富山に来てから、女性は出産後も働かなければいけないみたいな風土のせいで、家の人（同居）にも「家でダラダラして」と言われていやだ。せめて3才までは育児に専念したい
保育時間、病児保育の充実。子どもの人数に応じて支援金を出す。夫が会社を休みやすくなる制度。妻が急に会社を抜けたり休んだりしても大丈夫な制度（会社側の問題が大きい、理解が得られにくい）。保育料の免除（無料化）
産婦人科の（個人の）病院が少ない
男性がもっと家庭の仕事ができる時間が持てるよう、仕事の時間の制限ができるようになったら子育てしやすいかな。子供が欲しくてもできない人もいる。そういう人達のための対策も。今の社会全体の問題とつながってくるのでは
スーパーなどの生活に対する充実と、子ども手当など子どもに対する金銭や援助をもっとして欲しい。お金がかかると思うと子どもの数も少なくなると思う
中小企業で働いているが、育休取得歴がなく、また取得しようとする辞めさせられるというような現況であり、なおかつ未満児を保育園にあずけることが極めて困難な地域もある。よって、子どもはほしいものの、先々に起こることを考えるととても簡単につくれる状況にない。なので、仕事と育児を両立できるような対策を今以上に行ってもらいたい。まず子どもがほしいと前向きに考えられるような環境作りが必要だと思います
乳幼児、病児保育の充実。共働き家庭へのサポートサービス。初産年齢を下げられるような教育（男女共に不妊ということに関する知識を持てるように）
周りに小さな子供をもっている人が多いので、少子化が実感できていません。少子化というわりには保育園が少なかったり、そこで働く方の賃金があまり良くなかったりするので改善するべきだと思います。人口減少は、富山県内に魅力を感じる所がない。交通の便が良くない。富山で遊ぶなら金沢まで行って買い物をした方が楽しい
子供にかかるお金の負担をもっと軽くしてほしい（小さい頃だけでなく、ある程度大きくなるまで）
もっと女性の職場復帰しやすいように対策を考えて欲しい。実際に自分もマタハラを受けた立場にあり、そのようなことがあると次の子供を作る気になれない。お金がないと子育ても出来にくいため働く必要もあるし。もう少し金銭面で楽になれば良いのですが
子供を産んでも仕事を続けられるように。産休・育休は義務にしてほしい

◇既婚 25歳～29歳
子供が少ないとも思わないし、富山を出ようと思ったこともないのでわかりません
若い人がずっと住み続けたいと思える市ではない、と私は感じています。買い物に出かける所もない、友人とゆっくり過ごせるカフェも少ない。職場などでも若い人の意見を聞かず、押さえつけるような、ひと昔前のやり方がまかり通っているなど、他県から来た者として感じることは、富山県は「古い+つまらない」ということです。隣の金沢や大阪、首都圏へ若者が流れることは当然のように思います。少子化を防ぐために、まずは住みやすい町づくりからではないでしょうか
出産した家庭に祝い金を給付する等、色々な子どもに対する、育児に対する手当ての充実
子どもが多い程、税金を安くしてほしいです
子供を育てるにあたり、金銭的な補助が足りません。子供を産みたくても産めない現状です。私は高齢化の対策より、少子化対策を優先しないと県に先はないと思います
子育てしやすい政策、助けがあればよいと思います。育児費や、サークル活動など
若者の賃金増。不妊治療の助成。育児休暇を取得しやすくする（男女とも）。富山市中心部の保育園を増やす
県内で安定・充実した仕事を行える環境作りが、結婚と出産のムードを高める基礎ではないかと思われれます。高卒生が県外でなく県内で就職すること、県外の短大や専門学校、大学に進学した若者の多くが県内にUターンして就職（80%くらいでしょうか）することも、とても大切だと考えます。魅力ある企業・会社が富山に生まれ（富山に本社を持ち）若者や同年代の人々にぎわう未来を期待します
女性が出産後も働きやすい環境作り。正社員で働くには厳しい（保育園へあずけられたとしても） →パート勤務→低収入のため保育園代を支払ったらおわり
具体的な対策は考えられませんが、現時点で2人目の妊娠に躊躇するのは、育児にかかる費用や将来かかる学費を支払うことに不安を感じるからです。そういった不安がなくなり、産むとプラスになるイメージを植え付けることができたらいと思います（認識不足で、すでにそういった手立てがありましたらすみません）
確実な産休・育休制度。パート、会社員、アルバイトでも絶対的に産休・育休が取れるようにする。会社の理解を得たい。男女関係なく育休を取れるような周りの理解。子育て給付金の増額。最終的にはお金の問題
仕事、生活のことを考えると、子供は2人が限界。本当はあと1人産みたいと思うが、仕事に穴があくことやキャリアのこと、あと金銭的なことを思うと難しい。子供の体調がわるい時などのフォローがもっとあればたすかる
職場環境の改善（産みやすい環境づくり。上司との関係、休みのとりやすさなど問題が多いので。金銭面などでも企業に提供なり支援して、出産希望の女性を雇用し続けることが企業のメリットとなるようにしてほしい）
減税。不妊治療の無料化とか

◇既婚 25歳～29歳
女性が、でなく、男性も子育てに参加しやすくする施策が必要であると思います。お金をバラマクだけではなく、保育園も送迎バスを作るなどの方法をとるだけでも、かなり利便性が高まると思います
富山県は共働きの家庭が多いと聞きます。時間帯や安心して預けられる場所がもっと増えると良いです
産婦人科（個人病院）など施設が必要だと思う。0、1、2歳児があずけられる保育所等、母親が働きやすく、子育てしやすいところ
保育料が高い。働いていないと、保育園等に入れづらいのでなかなか2人目を考えられない。子どもが小さいうちは働きづらい（急な病気、子どもの行事などで休みづらい）。産婦人科が、住んでいる地域に少ない
妊娠・出産しても働きやすい職場環境。保育所入りやすい
子供一人産むのにお金がかかりすぎる。もっと援助してほしい。子育てサービス増やしてほしい。任意の予防接種を無料にしてほしい
昔に比べ、子供1人にかかるお金や時間が多くなっているのに、景気は良くならず、母親も正社員で働かなければいけなかったりすると、賃金も増えない。そのため、夫婦間で希望する子供の人数よりも、実際持つ子供の数を制限しなければいけないのが問題、第3子以降、保育料無料だけでなく、大学までの何かしらの優遇がないと、子供を3人、4人と産もうという気持ち、行動にふみこめない。また、学童保育（小学生）の時間が短い地域（16：30まで。冬は16：00までと聞いている）なので、なんとかしてほしい。パートでしか働けない
しっかりとした福利厚生と社会への理解
出産費用の補助（普通出産でしたが10万もこえました）。医療費の補助など大変助かっていますが、もう少し子育て支援に力を入れていただきたく思います。仕事をしていてなかなか市のサークルや行事に参加できず（平日開さいや、未就園児対象など）ママ友もできにくい状況です。土日でも遊べる場や（天候に左右されず）イベントがあればうれしいです。また働きながら子育てできるよう、保育所へ預けることのしやすいよう保育料の補助（第1子～）があったり、病気になった時も預けられる場（医療的に）（どうしても仕事休めない時）もあったりすれば良いかと思います。生活のために仕事をしていますが保育料が高くなかなかうまくいきません（何のために仕事をしているのか）。もう少し賃金をあげるか、補助も必要かと
保育所の増設、または定員数の増加。保育料の低料金化。かつて第3子以降、お祝い金があったのになくなった！！
私が住んでいる地域は、同居している方やおじいちゃん、おばあちゃんに子どもの送り迎えをしてもらっている方が多いように思います。近くに頼れる方がいると協力してもらうことができ、働いているお母さんも安心して仕事に行けるし、子育てしやすいのかなと思います。家族や知りあいに頼れる方を作ることが大切だなと思います

◇既婚 25歳～29歳

保育施設の充実。景気回復。景気が悪くて子作りを躊躇してしまう人が多いのでは。産院の充実。子どものいない夫婦にとって、産婦人科は未知なので、気軽に知れる機会が欲しい。保育園や保健所のプレパパ、プレママ体験も、1人では行きづらいと思います。実際、来て下さる人は少ないです

金銭的支援

保育料の減額。有給な育休。児童手当で給付の延長

◇既婚 30歳～34歳

子供を欲しいと思う人が、安心して出産できる環境を整えればよいと思う。自分が不妊治療していることもあり、そのような女性、家族に対しての理解も深まればよいと思う

目標指標を設定する前に、子供を産みやすい環境を作る事が先だと思う。産みたいと思う人たちがみんな産みやすい環境になった時に設定すればいい。自身も、できるならまだ子供がほしいと思ったが、現実はずいぶんきびしく、2人を育てるのにも将来にすごく不安を感じる。そんな悩みがなくなれば、もっとほしいと考える人も増えるのでは？もっと収入があれば、余裕があればと考える人も少なくないと思う。子供がほしくてできない人も増えていると思う。そういう人達のためにも不妊治療など手厚くサポートした方がいいと思う

子供の予防接種の無料化など、全体的に対策が遅すぎます。他に、働く女性、共働き夫婦などが増えている為、保育料の金額も収入に応じて決まるとなると高いので、出生数も減るのだと思います。それと、何にしても3人目から保育料が無償になるなど、2人目の時から得になる対策を少し考えて欲しいです

産休・育休がとりづらい。保育所代が高すぎる。働きながらの子育ては負担が大きい。病児保育の充実。以上、改善してほしいです

託児所

保育園入所、一時預かりを利用したくても厳しすぎる地域がある。仕事をしたい、でも保育園に入れない。一時預かりを利用しようと思っても、早くむかえにきて下さいとか、何で利用しますか？とか、こまっているから利用したいのに、質問攻めでとてもこわい思いをしました。もっと安心して仕事できる場所をつくってほしい

場所によって病院代が高い。一時金が出て、自払がある為、大変な時もある。産まれた後、病気などの費用を全体で、中学卒業後までとして頂いた方が生活として楽になるが、今は「税金u p、給与は低い」で生活に余裕が出ない家庭が多いと思う。学費なども前にくらべ高くなっている。子供手当などもあるが、毎月それ以上にかかるから、子供に対してもう少し何らかの対策があるといいと思う。注射にしても、働く親が多い為、自払があるのはキツイです。期間内にすべてが終わる訳ではないので、後からでも返金してくれると生活としても楽になります

◇既婚 30歳～34歳
地元が住みやすければ、子どもが進学しても就職等で戻ってくると思います。施設の整備や交通機関の充実、地域の人々との子育て、協力できる環境作りを望みます
出産について女性は、産婦人科の検診（妊娠中無料）や出産一時金、出産手当金、育児休業給付金、育児休業など手厚く守られていて、とてもありがたいことだと思います。一方でわが家では、子どもが小さいときに夫が単身赴任を2年半することになり、家のローンもあったため、自分たちでアパートを借りる余裕もなく、別々の暮らしとなってしまいました。企業に対して、夫側（父親）にも出産・子育てをサポートする体制を整えていくように県からも働きかけていただきたいです。宜しくお願い致します
医療費を中学生になっても無料や、3人目からは助成金が増やすなど
若い世代が子どもを安心して産み育てられる環境として、働きやすい職場や賃金UP、保育施設の柔軟性が必要だと思います
幼稚園、保育園の無償化。病児保育施設の充実
保育料もっと安くしてほしい
保育料無料の保育施設が欲しい。予防接種の無料化（すべての）
育児休暇が終わり、子供を保育園に入れたものの、カゼなどで休みがちで、お互いの両親もまだ働いているために復帰早々職場に迷惑をかけてしまうので、サポートしてもらえると働きながらの子育てがしやすくなると思う
保育料無料化。保育時間の延長（保育所、学童保育等）。育児休暇を取得しやすい環境づくり
子供を持つ母として、仕事をしながらの子育てはすごく大変です。保育園、学童保育等の充実を求めます。しかし、それにかかる費用が高く、会計に響いているのも現実で、もう1人欲しいと思っても、収入が少なければやめておこうと思っておられる家庭も多いかと思います。よくテレビで見っていますが、出生率の多い地域には、1人目〇円、2人目〇円、3人目〇円と出産された家庭へのお祝い金みたいなものが支給されていませんか？子供が産まれたらお祝金がでるといのは、富山県ではできませんか？児童手当って、3歳になったら減額されますが、それ以降にもお金がかかるんです。せめて小学校ぐらいまでは減額なしではできませんか？
子どもは未来を創る宝だと思います。人口増加により国家の繁栄や、個人の家族の幸福があるのだということを、子どもを持たない人々や老人は自覚すべきです。また、国もその考えを大きく打ち出し、子どもを持つ人々に温かい目を向けるよう努力すべきです。子どもを連れて歩くと、明らかに嫌な顔をする人もいて、いやな気持ちになります。現役の母親達が自らの仕事、子育てに誇りを持てるような発信をすべきです
子育て応援券などのサービスは大変ありがたいが、3年間で1万円分というのは少ないと思う。使える施設がたくさんあるのだから、せめて毎年1万円分支給してもらえると嬉しい。よろしくお願いします
出産毎にお祝い金。出産時の入院費用負担。保育料2子以降無料。土・日・延長保育料無料

◇既婚 30歳～34歳
子どもを育てられる環境づくり。保育、養育費など。働かないと金銭面で育てられない一方、働くと（共働きだと）育児との両立が困難。将来（年金、今後の年収）のことを考えると、子どもがほしくても容易には産めない
出生にかかる目標指標を設けるにあたって、目標をたてることで女性に多大なプレッシャーをかけるように思う。また、共働きしていないと生活していけない現状、保育所になかなか入れなかったり、子どもが生まれるから保育所に入所していても途中で退所しなければならなかったりなど、子どもを産むから手助けをしてほしいと思う親は多いと思うので、途中で退所させるのはどうかと思う。そこを考えてほしい。例えば、保育時間を9時～16時など時間設定した中で子どもをみてもらえると、親もうれしいと思う
あまりお金がかからずに子育てができる環境にしてほしいです
共働きでも子育てしやすい環境の整備。婚活支援。経済活性化（お給料UP、教育資金の不安解消）
仕事復帰をしやすい環境
県の希望数を産むとお祝い金をいただけるとよいと思う。10万以上とか
出産後の働く場所と保育所等の確保がもっと確実にできればいいと思います。子供を産みたくても現実的に無理です
今、子ども2人います。そして4月にはもう1人出産予定です。新聞で読みましたが、3人目は保育料無料というのはとても助かるな、と強く思いました。理想の子ども的人数を授かり、うれしいのですが、現実やはり保育料が高い、というのは厳しいです。医療費控除はとても助かっています。富山が大すきなので、是非、子育てしやすい県・市になることを願っています。そしてこのようなことを発言する場が無いので、このアンケートはとても良いです。よろしく願います
給料の賃上げ。育児休業後、復帰できる会社の体制。男性の積極的な子育て協力
保育所・園の充実（保育時間、保育内容や職場内保育所等 働きやすい環境）。学童の充実（小1への壁がある。学童の定員や時間について見直し、整備する必要がある）。保育園に入園していなくても、もっと簡単に一時保育を利用できるようにしてほしい。短時間勤務が昇給等に影響がないよう、とりきめて欲しい
保育園料の無償化や補助など。働きながら子育てしやすい環境を作る
第2子の育休を取得する場合、第1子は保育園を退所させられる。第2子、第3子を産み、育てやすい環境づくりをしてほしい。収入に関係なく、子どもの医療費や保育料を無料にしてほしい。小学生の放課後を安心して過ごせるような場所を保障してほしい。育休中の給料の保障をしてほしい。第一希望の保育所に入れるようにしてほしい
子供にかかる医療費をすべて無料にしてほしい。予防接種もすべて無料。そうすれば、少子化もふせげるのでは。子供を産む、産みたくなるような県にしていければよいのでは
経済的な支援の充実
出産後も働きやすい環境作り

◇既婚 30歳～34歳
不妊治療への補助金や小学生以下の子供を持つ世帯への補助金。また、それらに対する周囲の理解が必要でメディアを使って実態を示してほしい
雇用拡大。まず収入が安定しないと子供を作るプランが思い描けない。商業施設を増やしてほしい。中心商店街はいくら買物しても2時間までしか駐車料金が無料にならないので、車社会の富山は厳しいと思う。新潟を見習ってほしい。経済が潤わないと出生率は上がらないと思う
産婦人科を増やす。産婦人科が少ない。忙しそう。産む場所の選択がほしい。子育てしやすい。女性が暮らしやすい環境づくり。共働きしていると、子どものことへ意識がそんなに強くない
産める病院が少ないと思う
保育の充実（料金、設備等も）。小学校クライシスと言われる、新1年生、4年生問題の改善（学童保育の拡大）。核家族化が進む中で、地域で子供を育てるような環境、意識化（例：公民館などを活用し、地域のお年寄りと子供が交流する場、学童のような場所づくり）。人口数、少子化問題は、出生数や率など、目に見える指標を達成することが目的ではないと考えます。なぜ産まない、産めないのか、なぜ結婚しないのか、人口が増え、少子化が改善されたとして、次の世代や時代に向けた行動や長期的な対策をしていくことが大事なのでは。目先の事ばかりでは何も改善、進まないと思います
私は主人の両親と同居しているため、お金の不自由をそこまで感じず、子供を3才までは自分でみるつもりでいますが、核家族の人は、1才で働きにでていく人がほとんどです。子供は3人ほしいと言っていた人たちも2人で金銭的に限界だと言っています。逆に私のようにすぐに保育園にあずけない人達は2人目の子供をすぐにつくっている人が多いです。子供手当の増額と、2人目、3人目と出産したときの手当を手厚くしてほしいです。友達の職場の人は、「もうすぐ1才になるけど、いつ戻ってくるの？」という空気がでていて、みんな1年よりはやく復帰しているらしいです。安心して子育てできる環境がもっとできたらうれしいです
保育料や子育てに関わるお金の負担が大きく、小学校の放課後や長期休みの学童施設を増やしてほしい。子育てしながら働ける会社が少ないので、もっと理解のある社会になってほしい
子供を産んで育てる事はとても大変です。子供が安全で育ちやすい環境作り、補助などがもっと充実する様になればいいと思います
育児はどうしても母親の負担が大きくなると思うので、母親を助けるもの（お金、親子サークル、支援センター、家事サービス）を充実させてほしい。人手があると育児の負担が減るので、祖父母と同居することをすすめる施策（住宅補助、同居手当など）があると、子どもをもう一人もっていいかなと思えるかもしれない。「子どもは欲しいけれど相手がいない」と言っている独身男女が周囲に多くいる。仕事で忙しくしていて、出会う時間がないようなので、職場で休みやすい、プライベートの時間をもちやすいように配慮することも大切だと思う
不妊治療で出産しました。お金がすごくかかったので、もう少し補助があれば助かります。児童館、こどもプラザへよく行きます。あのような施設がもっとたくさんあれば楽しいです

◇既婚 30歳～34歳

育児休暇をとりやすい環境づくり。育休制度はあっても、育休をとりにくい環境の会社が多い。富山県では賃金も低く、共働きでないと現実的に3人以上は子育てできないと思う。保育所、子ども園が充実するのはありがたいが、自治体からの企業への働きかけで、育休制度の利用促進につながれば良いと思う

子育て支援の向上。特に保育所の利用について。PM6時1分でもすぎると延長料金が発生するのはちょっと。高い保育料を支払いしているのに、またお金がかかってしまうのでつらいです。又、子ども（特に乳幼児）にかかる料金がいろいろ高価なものもあるので援助があると助かります

保育料、授業料の軽減措置

二世帯をすすめる。共働きだと時間がなくて、子供をみられないと思うことが多い。正社員でも、子供が10歳くらいになるまで、働く時間等を会社と相談できたりしたらよいと思う。今は子供が小さいので、保育園にあずけているが、小学校に行くとき、自分は仕事を続けられるのか、不安で、3人子供がほしいが、産むことをまよってしまう。産みたい人が子供を産みやすい世の中にしてほしい

男性、女性共に非正規雇用者の賃金、保障の見直し。女性が働きやすいように預けられる所と内容の充実化（熱が出たとかで呼び出されても、会社では嫌な顔される）。産婦人科（出産できる所）が少ない。出産できる所が無い地域もある。子育てしやすい環境を作らないとダメ（子供服が買える、習い事、病院、市や町のイベント）

子供をたくさんほしくても、やはり子供が増えるごとにお金が必要となり、家計がくるしくなると思って、子供を増やさない家庭もあると思うので、産んだ後の金銭面での援助を国又は県からもう少ししてもらえると、減らせると思います

目標の設定をするよりも、子供を産みやすい、育てやすい環境が必要だと思います。富山県の不妊治療の助成対象となっている病院が少ないと思います

子供をもつと、老後の楽しみが増える現実を見せてくれるといいと思います。3人、4人子供がいる方々の生活（ライフスタイル）の紹介などがいいと思います。それにより、子を持つことの不安などがやわらぐのではないのでしょうか

素朴な疑問として、このアンケート（同じような）を男性にも送付しているのだろうかと思った（20代～30代女性対象とあるので）。もし送っていないとすれば、どうして女性にだけ送るのかなと思う。もちろん産むのは女性だが、少子化・人口減対策は女性だけの問題ではないと思う。結局アンケートする側にも、子どもを産むと負担が増えるのは女性、ならば女性に調査しようという意識があるように感じる。そういう意識がある間は、出生数も出生率も上がらないと思う。自身は2人子供がいて働いているが、夫のサポートがあるからであって、なければ退職せざるをえず、もう1人子どもを持つ夢は叶えられないと思う。学童保育時間の延長や病児保育の充実など、施策面でいろいろ必要だと思うことも多いが、赤ちゃん（子ども）と過ごすことの楽しさや、夫婦で一緒に育てることなど、男性をまきこんだ活動が最も重要だと考える。具体的でなくて申し訳ありません

◇既婚 30歳～34歳

産後も働きやすい職場が増えればいいなと思います（休みや時間の融通がきくなど）。育児休業あけで、すぐ保育園に入れないお子さんが多いようなので、何とかしてあげてほしいです

指標を設ける等、紙面の業務に労力とお金を使わないで欲しい。もっとする事があるのでは。子供を育てやすい環境が整えば、出産したいと思う女性は増えるはず。子供がのびのび遊べる場（駐車場等で遊ぶ子もいるので）を私はもっと増やして欲しいと思います

夏休みや冬休み（小学生）期間の子供のあずけ先の施設の拡充。そうすれば、仕事をしながらでも安心して子供をうみそだてることができる、と思います。子どもの医療費の完全無償化（県内すべてで）。市区町村によって異なるのは、不公平な感じがします

ワーキングマザーを支援する取りくみに力を入れてほしい。時短勤務を義務づけてほしい。病児保育施設をたくさん作ってほしい（病院に併設など）

子育て世帯の生活がしやすいようにしてほしい（税金、保育料等）。子供がほしくても金銭的に産めない人もたくさんいると思います。保育園等の待ちも

子供を育てやすい環境作りをすることによって少子化対策となると思うので、保育料の軽減、福祉医療費を15才まで無料化、保育施設の充実（共働きでも保育料の負担が大きく、なかなか子供をたくさんもとうと思えない。3人目は同時入所でなくても無料化にするなどしないと厳しい）。医療費も小学生以上で毎月1000円を除いて返還だが、それでは負担軽減にならない

少子化...結婚をしたくても出会いの場が少なかったり、結婚への意識がうすかったりする若い方が多いのでは？企業と企業の懇親会など、出会いの場を増やす。子どもを育てやすい環境をつくる。子どもと一緒に出掛けやすい場を増やす（無料で遊べる室内公園のようなものがあるデパートなど）。学資保険の援助。人口減少...魅力的な大学・職場が増えるようにする。税金を安くする

私は子育てをしながら、特養で働いています。正職なので夜勤もしなければならなかったのですが、結局パートになりました。結局、働く環境が整えられていないから、子供を産む、育てることができないのです！！国や市の基準が決められていても、現実はそこです。弱い者の味方にはなってくれないのです。早急に働きやすい環境整備が必要です

保育園の無料化、または2人目、年が離れても半額など、学費の補助・無料化など、金銭的な援助。親の収入や子供の数で、子供たちの学業、スポーツなどに差が生じないようにしてほしい。日本全体で子供たちを支えてほしい。不妊治療の金銭的補助拡大

経済環境の悪化を起因として、子育て世代の置かれている環境が年々厳しい状況になっていると感じています。子供を産みたくても不安定な就労状況、将来に対する大きな不安を抱えながら子育てをしているのは私だけではないと思います。安心して産み育てることのできる環境の整備も必要かと思えます。病児・病後児・休日保育体制の充実、子供たちが安心して通学できる見守り体制も必要。仕事と子育てを両立できるよう、延長保育・学童保育の充実をお願いします。少子化・人口減は一過性の対策ではなく、継続的な支援をお願いしたいです。「産みたい、けど、経済的なことを考えると」という感じです

◇既婚 30歳～34歳
働いている方も安心して子供を産めるような環境。預かり保育の充実。子供がそだちやすい環境（公園、屋内公園）
医療費助成や子育て対策を現在実施されていると思いますが、PR不足を感じます。保育料無料や延長預かりが拡大してほしいです。富山県は共働きが一般的ですので、母親が子育てしながら働ける環境を更に整備していただきたいです
若い世代を対象に婚活をすすめる
晩婚化が進んでいるので、婚活パーティーの実施。晩婚化になれば子供を産める数もかぎられるので、早く結婚できればよいのでは。子供を作っても、出産費であったり、子供の養育費だったり、自分たちの生活にはお金がかかる。もう少し会社の給料を上げるとか、生活の苦にならないのであれば、出産数も多くなるのではないですか？まずは日本の社会が変わるべきです
目標出生率、出生数、希望出生率をあえて設ける必要はない。それよりも、子どもが欲しくても出来ない、出来ない人への支援をもっと充実してほしい。そこに力を入れれば、少子化対策に絶対つながっていくと思う。不妊治療のサポートなど、あるのならもっと広めていくべき
子供はたくさんほしいと考えていますが、実際は2人と主人と話しています。その理由は将来の学費などを考えると、やはり理想と現実は違うのかなと思います。特に、3人は欲しいと強く思っていて、年齢的にも体力もある私にとっては、少し悲しくなります
産婦人科医師、助産師、保育士の増加。企業の中に保育園（大手ばかりなので中小企業にも欲しい。特に産休・育休あけの未満児保育の充実）。子育て中の家族の食品の税金割引（子供の人数が増えると食費が増す）。子供が高校生以下の共働き世帯の税率軽減
不妊治療の助成に力を入れてほしいと思います。私は結婚して半年後から約2年間不妊治療を受けていました。保険適用外のことが多く、出ていくお金も多いし、精神的にも辛かったです。県や町指定以外の病院で治療を受けると助成金が出ない。指定病院は大きい病院ばかりで予約取るのも大変で行きにくい。人工授精などしても思うように出来ないし、体外受精するほどお金もないし、色んなことがあり、治療はもうあきらめました。子どもがいる家庭ばかりの施策が多いですが、子どもがほしいのにできない夫婦に対する助成範囲を広げてほしいです。もしすでに不妊夫婦に対する施策があるなら、分かりやすく県民に知らせてほしいです。私のまわりには子どもが欲しいが出来ないと悩んでいる人は多くいます。私は子ども欲しいですが、半分あきらめている状態です
各市町村に公立の保育園、幼稚園を設けてほしい。第3子の保育料無料に加え、第2子は半額にするなど、各市町村バラバラな対策をするのではなく、全部統一してほしい（現在、保育園は同通園なら半額、幼稚園は小1～小3までのきょうだいがいれば半額になっていると思います）
不妊治療の助成を充実する
不妊で悩んでいる人が沢山います。専門の病院が増える事を願っています
保育施設の充実。小児病院の充実、病児保育の充実。経済的負担の軽減。産婦人科の充実
離婚しても子供を育てられるという環境。男性に、DVという自覚をもってもらう

◇既婚 30歳～34歳

高齢者には支援援助がたくさんあるが、子供にとっては住みにくいと思う。施設も高齢者には優しいが子供にはきびしく、遊びに行く所もあまりない。30代の給与も低く税金や年金がどんどん高くなっていくのに、子供を育てていく見込みが立たない。少子化、人口減少と言うばかりで、本当に子供が楽しく育つ環境なのか、大人は子供を嫌い、どこかへ行っても大切には思わなく、うるさく騒がしいと厳しい言葉が聞こえ、親は常に謝る。手をさしのべるのではなく、心を思いやるでもない世の中だと思う

子そだて支援の充実が必要。現状、第1子には3才まで使える支援券が1万円分だが、金額をあげてほしい。保育園の利用料を安くしてほしい。出産までの検診全額無料化する。出産にあたってお金が色々かかってしまったことは知識としてなかったもので、その部分の支援があると良い

個人的意見としましては、子供を2人～3人ほど希望しておりましたが、仕事の事とか経済的な事もあり1人です。子育てをしながら仕事も両立できる事が理想だと考えております

出産した場合の市町村からの補助のばらつきをなくしてほしい。出産は一緒なのに、市町村によって補助が少ないこともある

産科・小児科の確保が最重要。産科の医師がどんどん居なくなって、受け入れ制限されたりしている。このままでは3人目は産めません。小児科も少なく、待ち時間がとても長い

子供は現在2人いますが、本当は3人欲しいです。でも現実的に経済面での不安が大きくあきらめています(まわりも同じ考えの方がとても多いです)。3人目は保育園無料やお祝い給付金があたるなど、魅力的なものがあれば必ず3人目を産む人が増えるのに、といつも思います。あとは、子供が喜ぶ施設(アンパンマンミュージアムやテーマパークのようなものなど)を思い切っつくと(新幹線もくるのでぜひ!!)富山にもぎわうのではと思います。家のローンもあり、共働きをしていますが、子供が多い婦中町などのように学童も充実しておらず、子供をあずけるところもなく、パートにしました。正社員と比べ、パートには損なことも多く、とてももう1人産んで高い保育料を払うことは本当にムリで。でも夫も私も子供は大好きでもう1人欲しいのに。あきらめるしかないのが現状です。なので、目標指標を設定するならば、ぜひ出生数をあげることができる施策の実現をおねがいます!!

出産時の祝い金や保育園の月額免除は3人目からだと思います。1人目、2人目の場合も考慮して頂けたらと思います。私が住む地域では、保育料1人目と2人目同時に通園している時は2人目の保育料が半額ですが、1人目が小学入学すると2人目が全額になります。2人目卒園まで半額であれば、より負担が軽減されるのですが。また、他の市では学童保育の無料化を希望する声も聞きました

子供を育てるには沢山のお金がかかるので、理想子供数をあきらめている方も多いと思います。各世帯の収入に応じてでも良いので、少しでも補助があると、あきらめていた方もまた出産を考えられるかもしれません。子供を育てる環境を手厚く整えると富山へ戻って子育てしたいと思う方も増え、人口減少の問題解決の力になると思います。出産、子育て、不妊サポートを固めて頂き、他県へアピールできれば、富山で暮らしたいと思う人が増え、少子化・人口減少問題が減ると思います

◇既婚 30歳～34歳
同居をしているからといって、必ずしも祖父母に面倒（子供の）をみてもらえる訳ではないので、その点でも何らかの対策があるといいと思います
産休、育休をとり易くする環境づくり。未満児を預かってもらえる環境づくり。育児にかかる諸費用に対する補助金
子育てしやすい県づくり
看護師がいる保育所（病気の子供でも多少預かってほしい）
男女ともに年をとるにしたい、安全な妊娠・出産ができなくなるという事実を周知させる。妊活の補助金にも年齢制限をつける（35才くらい？）。世間で知られる、子育てのリスクについて、とられている対策をはっきり示す（ex. 全国ニュースでよく、保育園の待機児童についてとりあげられるが、市内でそれを感じた事はない。子育てにお金がかかるとよく聞くが、医療費の補助や出産一時金など、対策されているものもある。病児保育、学童のシステムがよくわからない）
産婦人科が多くできてほしい。子供と買物しやすい場所を多くしてほしい
保育施設や育児支援サービスの充実を図り、安心して子育てができる環境を整えていくこと。産みやすい環境
子供を育てるのはお金がかかる。児童手当の金額が変わったり、高校の学費の無償化など、その時々で、あたりなくなったりするようでは、安心して育てられないと思う
保育料を下げる
現状では、子供を産む事は出来ない！！不安がいっぱい
保育料の減額、公的サービスの充実、税金等の減免、不妊治療に対する助成の強化。共働き世帯の多い中、十分な収入がなければ、子を持ち、産休育休に入ることもできない。希望通りの子供の数を持つことが不可能。結婚する年齢があがっていることも含め、望んでも授けられない夫婦もいるので、不妊治療を行う夫婦も多いが、金銭的負担も大きいので、更なる助成があればよいと思う
保育園（所）の入所条件を緩和。再就職支援。男性女性問わず、子育てへの理解を深めるための広報活動
産休・育休後に保育園にあずけやすいように、保育園の早朝・延長保育をもっと充実させたり、小学校の学童も、数をふやしたり、もう少し遅くまで時間をのばしたりしてほしい。あとは、やはりお金がかかるからという理由で出産をあきらめる人もいるので、保育料、高校以上のお金などが少なくなれば、産む人もふえると思う。（希望出生率については）よくわからない
地方自治体だけではなく、国全体での対策が必要。市町村や県を超えて預けられる保育所など（都市部に限りかもしれないけれど）作ってほしい。住民票をうつさなければ保育所に預けられないのは不便です。あとは、子どもがいても女性がちゃんと就職できる環境の整備
職場の理解。病児保育施設の増加

◇既婚 30歳～34歳

女性が子どもを産み育てていくのには、まだまだ厳しい現状があると思います。たくさん子どもを産みたくても、その為には働く女性は育児休暇を取るにあたり、安心して休暇を取れないというか、会社に迷惑がかかってしまう、などと考えてしまいます（だから仕事やめよう、とか、子どもを1人にしようとか）。やっと復帰しても、子どもはしょっちゅうカゼなどで熱を出し、保育園や幼稚園を休まざるを得ません。その度に会社の人々に申し訳なく思い、肩身が狭いです。でも女性が働かなければ子供を育ててゆけません（生活費、養育費等々）。働いていても当たり前前に育児休暇、子どもの看病休暇など取れる社会になるよう、企業の方にも理解して頂きたいです

働く職場に保育等のしせつがあれば、男女問わず、働きやすいと思います。女性イコール子供を保育所へ預ける時間がある（かかる）から子供をうみづらくなる or 育てにくくなる、では？

今、私は子供4人おりますが、やはり、もっと子供を連れていきやすい環境が整った場所が増えて欲しいと思います。現状は、子供連れだと肩身の狭い思いをする事がたくさんあります。そうすると、子供を連れて外出する事が嫌になり、また、子供をもとうとする若い人達も減るだろうなと思います

具体的な目標のもと、少子化・人口減少対策を行うことは、必要なことだと思います。反対の声もあるかもしれませんが、県としてがんばって下さい。富山県は働く女性が多い県ですが、それはどのような女性でしょうか。フルタイム、またリーダーとして活躍する女性は少ないと思います。ただ、人口、県民を増やす政策とするのか、IMFや首相が目指す女性の活躍と少子化の両輪とするのか、明確な政策をたてていただきたいです。どちらも大切なことで、どちらになっても応援するつもりです

小さい子供がいても働ける職場。子供が小さいと、休みが多くなる為、なかなか雇ってもらえないので、1人しか子供を産んで育てられない

共働き世帯の多い中、子育ての大変さや経済的負担を考えると、なかなか難しい夫婦が多いのでは。ウチは認定こども園に通園させていますが、次年度4月からの本格的スタートに向けて、今までと、どう金銭的負担が変わるのか見通しが立ちません。収入はさほど変わらないのに、保育所と幼稚園では差があり、教育資金に心が痛みます

女性が仕事復帰しやすい環境、現に2人目出産後、下の子を早く保育園に入れたいが、入れられないので、やっぱり3人ほしくても2人が限度かなと考えたりする。人口減少対策として、若い人が住みたいと思うような街づくりや、出産・結婚に意欲が出るような取り組みが必要。以前住んでいた所は長野県ですが、小さな町・村では保育料無料や、移住して家を建てると補助があったりしたので、若い人も移っていた。友達に話しても、富山より金沢にという人がいるから、突出したものがないのだと思います

安心して子育てができる施策があれば良いと思う。現在、病気を持って生まれた娘を育てている。病院での支払いなどはありがたいことに無料でできるが、物品は何の補助もなく、全額自己負担だった。結構な金額だったので、そのような物品にも補助があればありがたい

◇既婚 30歳～34歳

自分も結婚が遅く、30歳を過ぎてからの出産だったが、もう少し若ければ、そしてもう少し経済的に余裕があれば、3人の子どもがほしいなと思います。やはり、若いうちに結婚して、体力のあるうちに出産や子育てをすることが良いことでもあることを、もう少し意識できていたら良かったなと思いました。また、経済的な不安の面では、将来の子どもの学校（大学など）のことも不安に思うので、そのような援助などもあれば、3人産んでもきちんと育てられるかもしれないと思うかもしれません

補助金等は今以上の効果はないと思うので現況維持。子どもを産むことが仕事を続けたい女性にはマイナス面を払拭できていないので、女性には社会進出をと促すなら、男性には家庭への関わりを増やすことをしていくか、子ども園や保育園の充実（365日24時間開園、あずける事ができる等。もちろんシフト表提出、その交通時間も合わせた時間であずける事とか、あずければなしにならないようにする事も注意）。教育費もそうですが、子どもを育てていくことによる金銭的負担が軽くなるような、「そんなに負担はない」と思えるようでない、子どもを持たない。未婚者の方には子どもを産むことがプラス要素ありとは思えないと思います。私は以前介護職でしたが、夜勤や早番、遅番がありました。7時～19時までフルに保育園をつかえたとしても、夜勤では子どもをあずけることのできる施設はなく退職しています

子供を育てていく上での様々な支援。今もたくさんあるが、市町村ごとにバラツキがある。出産祝い金などがあると、2人目3人目を産もうと思しやすい。3人目に100万円なんて絶対に産みます。お金ではなくてもよりよい支援があるといい。私は県外に出ていたが、子供を育てるなら地元が良いと思いついてきた。そういう若者を増やし、県外からも働きにきてそのまま気に入ってくれるような県づくりが必要だと思う。そうすると県外の人口が減るのですが。共働きしやすい環境も大事だが、何より夫の収入が増えなければ安心して産めません。産んだ後のことは、産んでみないとわからない。身体のことなので。あと、インフラクチン、高齢者割引（というか一律の値段）はあるのに、なぜ子供にはないのか不思議。かかりつけで打ちたいと思うが、高いので、安いところで打っている。1回1000円の開きがあると、子供2人で4000円も違う。妊娠期、新生児期、乳幼児期と大きくなるごとに悩みも変わってくる。3才半までは健診などで相談する機会もあるが、それを過ぎるとその機会がなくなる。保育園などの先生にも相談するが、専門的なことはできない。自らTELや機関を訪ねることはできるが、ハードルは高い。高く感じる。吃音についても、相談するところが少なすぎる、相談しても「大きくなればよくなるから、様子をみましょう」など、相談する意味がない。というか、皆さん吃音について知らない方ばかりで驚いた。もっと相談できる場所を増やすこと、勉強会などを開いてほしい。富山県は特に吃音に関してはどうとすぎると思います。言語聴覚士も少なく、育てる学校もない。せっかく医療系の学校がたくさんあるのに学部がないなんて残念。子供1人1人、親1人1人にはそれぞれ悩みがあって、それに寄り添うことが大事だと思う。とりあえず人口増やして子供を増やせばいいなんて思っていないですよ

◇既婚 30歳～34歳

学童保育を充実させて欲しい。保育時間を長くして欲しい（保育園）

第3子以降に限らず、保育料等の軽減を。放課後児童クラブの充実。育休取得の職場での理解、代替職員の補充財源の補助。雇用促進

子育て支援の充実（金銭的支援）、教育の充実、働きやすい環境の整備

◇既婚 35歳～39歳
希望出生率は、このような調査を基に決定されるであろうから、県民の意識に寄り添った、それほど無理のない目標、実現性のある目標となって良いと思う
子どもを産んでも経済的にとても厳しいです。税金の軽減などの対策はできないのでしょうか。近所にも子どもに兄弟を作ってあげたくても経済的に一人しか育てられないという人が何人もいます
一人の子どもを育てるにも、多額の費用がかかるので、経済的な負担をなくして子どもを安心して育てられる働き方や長時間労働の改善や正社員化を図る施策が必要だと思います。子どもは次代の社会を担う子なので、子どもを産み育てやすい環境をつくってほしいです。また、富山県の人口が減ってきているので、観光開発や地域おこしの施策も必要だと思います
小学校の学童設備を充実させる。子供の遊び場をつくる
夫の給料があがる事。しばらくは子育てに専念したくても出来ない。2人を理想としても経済的に無理だから
子育て応援券1万円を増額してほしい。インフルエンザ、おたふく、B肝をすべてすると4万円以上かかる。1万円ではとてもとても足りない。子供がいる人が優先で入居できる老人ホームを作る。学童保育の充実（夏休み冬休み等も預かってくれるのが標準にする）
子育て応援券のようなものの手当ての充実。子育て世代にとって、よりよい環境、病院など。（何かしらの理由で学校に行けなくなった子のための）フリースクール、小中高で作ってほしいです。どの年代の人にも住みやすい県であってほしいです。とくに子どもとお年寄りにやさしい町
子育てしやすい環境作り。子育てと仕事の両立ができる行政作り。今は子育てしながら働くのは難しい状況。働いても、小さい子供がいると、病気や学校行事で休まなければならない事が多く、仕事を続けるのは厳しい。実際、今、働いているが、2人の子育てとの両立が難しく、来春退職予定。子育てを理解してくれる職場があまりないのが現状
女性が職場復帰や産休・育休を取りやすい環境作り
私が子どもを産んだ時より、子そだてしやすい環境がととのってきているように感じます
小さい子供と接するなど、いろんな年代の人と接し、知る機会が必要だと思う
子どもの数が多くなると、経済的な面で負担も大きくなるということが一番の不安材料だと思います。子どもをたくさん産むことに対して、もっとプラスのイメージを持てるようにすることが大切だと思います。娯楽施設（映画館など）や飲食店、旅行等で利用する運賃など、家族で利用するような場所で、子どもの人数に応じた割引サービスなどあればおもしろいかなと思います
パートで働くにしろ、給料が少なく子供が育てにくいと感じる人もいるだろうし、正社員で働いたとして（現実、私が）仕事がたくさんあり、残業することも多い。まして管理職（主任）として働いていると、どちらも優先順位がつかず、苦しいと感じることがある。子供の人数が多く、主婦の給料が少なければ男性側の給料をあげるとよい。反対に子供の数が少なければ、生活費や食費等も少なくなるので普通とか。より教育費を一人あたりかけたいと思うのであれば、働く必要があると思う

◇既婚 35歳～39歳
病児保育など、育てやすい環境づくり
子育てのしやすい環境作り。子育て支援（医療費無償化）などが一番良い対策だと思います（1、2人子供を持つ親が、もう1人、2人と産んで育てられる金銭的支援があれば考えると思うから）。又、子供の出来にくい人々への対策として、不妊治療費用への施策も有効かと思われます
医療費無料の年齢を上げる。保育料の2人同時なら半額になるのを、上の子が小学校にあがると下の子の保育料が安くなるので、上と下が同じ保育園だと卒園しても安くしてほしい。小学校の学童が土曜休みなので、働いていると土曜仕事だと子供をどうするか困るので、せめて第2・4土曜日は学童をしてほしい
たくさん子供を産めばいいと思いますが、現実的にお金もかかるし、共働きしないと生活出来ない。高収入の会社、子供がいても働きやすい職場作り、独身どうしの出会いの場など、結婚って良いものだと思う地域作りを希望します
性教育の充実を（高齢になったら妊娠しにくくなること、リスクなど。親となる人間にもっとしっかり性教育をすべき）。子育てしながら働ける環境と意識づくり。現実的に、夫の稼ぎだけでは絶対に食べていけないので
未婚の出産者を保護すべきと思います。必ず既婚者、などと決めるのもおかしいと思いますよ。上記などの方のことも考えるべきです。シングルであっても富山で生活してもらえばいいと思うので。あと、既婚者ペアであっても子供ができないこともありますので気をつけて下さい
子育ては楽しいが、風邪や病気、行事で休まなくてはいけないことも多い。しかし、働いていると、その休みが大変。公務員でも育休や部分休業で昇給延伸がある。子育てにかかる休みに理解がない証拠。また、核家族化が進んでおり、住居費にもお金がかかる。もっと子どもをほしくても、金銭面、そして職場の理解がないと難しい。数字を出すより具体策を！！子育て、子どもをもつ喜びについて思春期にもっと教えてあげて下さい。子どもがいない人生がどんなに寂しいか、それを老後に知っても遅い。とにかく早く取りくんで下さい
高校生までの子供にかかるお金の負担をなくす（市や国が補助。医療費など）
妊娠・出産で仕事を辞めて下さいと言われ退職した。そういう会社はまだ多い。そういう会社が減れば、安心して子供をたくさん産める。仕事も派遣が多くなりすぎ、収入に不安があれば、安心して子供が産めない。派遣を減らし、収入が安定することが一番大事だ
すべての子どもの医療費無料化。保育園、幼稚園の預かり時間の延長。小学校、児童館をもっと自由に利用できるシステムにする。再就職活動や就職しやすい環境になることが出生率を上げることにつながると思います
不妊治療の補助
子育て支援センターの充実。ゆとりのある生活。子育てが一段落してからの再就職先の支援
男女の格差をなくす。賃金・待遇等。富山県は保守的な人間が多いが、そういう人間がこういう施策に関わっていないは何も変わらないだろうと思う

◇既婚 35歳～39歳

せつかく大変な受験戦争、就職難を乗り越えて得た職を結婚や出産で手放すなんて、とか、離婚のリスクや子供への出費を考えると結婚するよりも恋愛関係でいたいと考える女性が多いので、そういった女性が、結婚したい！と思えるような対策をまず考えるべきです。女性の勤労と育児を両立できる制度が必要。残業も少なく、女性だけでなく、父親の育児参加にもつながるように、男女共に早い時間に帰宅できるようになれば、片親だけに育児負担がかかることがなくなり、育児に楽しく取り組めるようになり、気持ちにゆとりが生まれます。休業中でも所得を保障してくれる、育児休暇制度を強化し、子供の数が多い程、課税が安くなったりすると、もう1人育てようかな、という気にもなると思います。私には3人の子供がいます。かわいくて仕方ありません。多くの女性に子を持つ喜びを味わっていただきたいです

婚活の場をもっと設ける（県主催等で招待状を個別に送るくらいの勢いで）。結婚した方がメリットがある制度等を設けたらどうでしょうか（結婚している方に手当があたる。独身の方の税金等を上げる（重税）等）。子育ての際、悩む事として、自分の用事・仕事等で子供の面倒をみられない際の預け先についてです。手頃な料金・手続きで預かってくれる場所があれば助かると思います。正規雇用者をふやす事も大切だと思います。少しづれるかもしれませんが、雇用の面では、介護職員の賃金を値上げしていただきたいです。男性職員の方も頑張っておられます。賃金が安すぎるため転職を考えられる方もおられます。子育て中の男性職員の方々は、かなり切りつめた生活を送っています

社会保障の充実を図ってほしいです。これからますます団塊の世代が老人になり、子育て、介護、核家族の生活などが若者にかかっており、先の不安が大きすぎて結婚にふみきれないこともある。2人夫婦の家庭では、子ども2人で、お金を稼いで貯蓄したいというのが今の時代ではないでしょうか。ある程度のゆとりを優先に考えて生活しているのではないのでしょうか。将来の不安にそなえて貯蓄する人はふえていると思います

女性の結婚年齢が高くなっているので、出生率が低くなるのはしょうがないと思います。そのへんから考えた方がいいと思います。一人目ができても、二人目がなかなかできないこともあるので、不妊治療の助成金をふやしてほしいです

子供を育てるのにもお金が必要です。その為には共働きが理想ですが、保育園は5時まで、小学校低学年の時期もなかなかお留守番をさせるのも（夏休み、冬休み、春休みなど）となると、なかなか難しいというか、大変です

少子化で人口が減少することは、自然の流れだと思う。無理に産む必要はない。ITの発達などにより、考え方も変わったのではないかと。命には限りもあるし、いずれ人間も他の生物と同じようにいつか滅びるのではないかと。自然の流れに乗り、人口が少なくても成り立つコミュニティ、システムを作っていくのはいかがなものかと考えます。現在ある市内電車のように（富山市のセントラムのように）すばらしいシステムを作り上げたように、取り組んでいけたらいいのではないのでしょうか

◇既婚 35歳～39歳
まだまだ保守的な会社ばかりで、結婚・出産後に働く環境が整っていない。非協力的。出産したら、すべてが初めてのことなので、もっと協力してほしい。たよれる人がいない。いろいろな事をしていращやるかもしれないが、情報が伝わっていない
子育てしながら働きやすい職場
天気の良い日に子供といっしょに出かけられる場所を増やしてほしい。平日お休みの家族も増えているので、平日も楽しめるイベントなどあればうれしい
私自身、現在病気療養中の為、欲しくても子作り自体出来ません。不妊治療をされてる方も沢山おられると思いますが、欲しくても出来ない女性に対する対策をもっと考えて欲しい。こういう女性は沢山いると思うので、治療費の助成を見直しするべきだと思います
出産年齢の高齢化に伴い、子育てと仕事両立が難しいため、時間外保育や学童の充実をもっとしていただきたいと思います。仕事をやめて、子育てに集中したい人のための援助もあると良いと思うのですが
子育てしやすい環境づくり。子どもを連れて外出しやすい環境づくり（例えば授乳場所、おむつ交換等）
やはり経済的理由が一番あると思います。小・中は義務教育であっても、習い事、部活動での費用がけっこうかかるし、高校・大学になるともっとかかるのに、税金はなんでも上がるばかり。県としてではなく、国がかかわらないと、人口は増えない。高校生、大学生の時にも経済的支援があると良い
市民税・県民税を少なくする。雪国でも安心して暮らせる対策を考えてほしい（屋根雪下ろしや除雪の負担を減らしてほしい。道路の整備 etc.）。不妊治療費の全額負担
女性が仕事をしながら子育てがしやすい環境。特に小学校に入ってから心配が大きい。実際、女性がフルで働いている子どものほうが、学校生活で不利な事が多い。学校も分かっているようで分かっていないので、親も子も我慢やストレスが多いので、いろいろ考えると、共働きは特に、子どもを産む事にストップがかかってしまう
学童保育について、現在長期休暇の学童保育を実施していない校区について、長期休暇も実施する。高額・長時間保育施設を充実させるよりも、幼稚園の預かり保育や放課後児童健全育成事業を充実させてほしい（パートで仕事をしながら子育てもし、それぞれを適度にやりくりし、生活の質が上がり、子育てしやすい状況になると考えます）
まず、未婚の人が結婚し、子どもを持てるように男女の出会いの場をもうける。不妊治療の費用の補助。働いて子育てがしやすいように保育園の充実。育休がとりやすいように企業側への働きかけ
『分業』 パパは早く帰って育児に協力できる。ママも少しの時間でも社会に出られる。負担を広く分配する。育児にかかわる人もそうでない人も、世の中の仕事を分けることで、育児に協力することになるのではと思います
冬でも子どもが遊べる施設を増やしてほしい

◇既婚 35歳～39歳

結婚しやすい社会（出会いの場を設ける）。結婚祝い金、出産祝い金を出す。出産前後の訪問（保健師）数を増やす。赤ちゃんとママの地域別集会の回数増。市のキッズスペース等を利用する時は、駐車料金を無料にする。病後児、病気の子供を預ける場（病院なら安心）を増やす。土日でも子供を預けられる場の提供（いつも預けているキッズスペースなら安心）。小さい子供がいる父親への仕事の軽減（ママにとって、パパの助けが一番必要）。放課後の子供の居場所づくり（狭い場所×、時間延長、1～6年生まで利用可能）。子供を産みやすい会社づくり（育休をとりやすい。復帰後の負担が軽い。小学生低学年まで仕事の負担を軽くしてほしい）

富山県の中でも、こども医療費受給対象年齢が市町村によって異なっているので、平等にしてほしい。市町村によって助成金がないなど色々な部分で、不公平に思う。
こどもを産めない理由は経済面にあると思うので、医療費や教育費（学費）、保育料など、改善されるとうれしい

今、（パート含め）共働きの夫婦で核家族が多いので、子供を持っても、その後、仕事復帰する時に子供をどう保育していくかで、皆、悩んでいると思います。私の家は今6歳と3歳の子供が居ますが、小学校での放課後・夏休みの事で悩んでいます。ママ友と集まればその話題です。結局、働いてもそちらにお金も掛かりますし。保育所もパートの家は保育時間の短縮など、色々と子育ての事で悩みがつきません。第2子、3子を希望する家も、皆、その問題であきらめています

支援を手厚くしてほしい。特に身内が側におらず夫婦のみで複数人の子供を育てなければならない場合、母親が身動きできず困る。預かってもらえるサービス（保育サービス券みたいの）あると助かる。カゼもひけないです。24時間一人きりで育児は、死にたいくらいつらい時があります。ベビーシッターを雇える券とか、すごくほしいです。父親一人への経済的負担も大きい。子供を持つ親の就労が多い企業へ表彰とか。補助金を出すとか。子持ちの親をより優先して就労させることで、子供がいて得する気持ちにさせてあげてほしいですね。お金より気持ちの問題ですよ。モチベーションの下がることばかりですから

働くなかで、地域により時間外、長期休みのとき子供をあずける場所や時間が異なるのはおかしい。安心して働き続ける事ができない為、子供の数ためらってしまうのでは？子育て支援といいつつも、全ての地域ではないと思う

子供手当などの支給額を全て同額にしてほしい。第3子から金額が上がるのはおかしい。全て平等に。中学生まで子供手当が支給されているが、高校生などにも何か手当の様なものがあれば良い。幼児ばかり不公平だと思う

何よりも富山県の魅力を増やす。富山県から他県や都会へ人口が移動しないように、富山県の経済が活性化するよう願う。晩婚化や高齢出産がさらに進まないように、もっと県民や企業も巻き込んで行政は考え行動すればいいのでは？他人事では良くならない。富山県の最大の長所は、県民である私自身、何かわかりませんが、それがもし決まったら、県民みんなですべてを伸ばし、短所が見えにくくなればよい。その長所には必ず「人」が関わり、経済が生まれ「金」が流れる。人々の気持ちに余裕と潤いが生まれる

◇既婚 35歳～39歳
他県に比べると、大きな公園が少ない。自然が多いのに、ハイキングコースやアスレチック etc.も少なく、週末に出掛ける所がない。住みやすいとは思いますが、子供の為に県外（転勤）に出たいと思わせる
若者が定住するよう、雇用を増やし、土地の値段を安くして、家を建てられるようにする。保育料、給食費の減額よりも、保育士の正規採用を増やし、保育の質を上げる
公園や児童施設を増やしたり、子供と一緒に使用できる支援センターなどがあったりすれば良いと思います。できれば無料の
市民税を引き下げ、子供に関わる費用の援助を充実させる事。経済的に苦しく、出産ができない現状を改善しなければならない
企業（女性が実際に働いている職場）の保育施設を設ける。保育・育児のための環境を整える。そのための補助金・助成金などの制度。親（子どもにとっての祖父母）と同居の家族にも保育園に通えるようにする。不妊治療に対して、もっと補助金制度を強化してほしい（現在、条件が厳しすぎる）。全てにおいて、制度をもっとアピールする。今、私たちが一生懸命調べないと、どんな優遇や制度があるか（ないのかも）分からない。だから興味のある人しか知らない。はじめからあきらめていたり、期待していなかったりする人も多いと思う。広く、大勢に知られることで、安心感ができると思う（世の中に）。子どもがほしい人、子どもを産める人が増えると思う
子どもを預かってくれるところの確保（学童保育の充実など）。子ども手当等の金銭援助はあまり効果がない
明るく可能性に満ちた日本の将来が保証されれば、少子化は解決されると思う。が、具体的な施策は難しいです
私達に子供を産んでほしいなら、まず、経済的環境を整えてほしいと思う。核家族で、なおかつ共働き、その上、地域の婦人会、母親クラブ、PTA etc.に手をとられ、正直、生活はとても難しい。その様子を見ていたら、結婚や出産にあこがれない気持ちも分かる。まずは安心して働ける場所、預けられる場所（子供）をふやしてほしい
産休・育休中の金銭的支援。不妊治療に対する金銭的支援。育休を取れるような会社の体制（企業への指導）。とにかく今の世代は給与が高くないので共働きが必須です。そして子供を産んでも家計が苦しくならない環境づくりが第一。一番の問題点は金銭面です
働く女性に対する支援。産休・育休を取得しやすい施策
男女が知り合うイベントを開催（定期的実施、十分なアピール）。職場での、子育て・出産に対する十分な理解、協力、雰囲気づくり（上司は産休、育休、復職を希望すると嫌な顔をされます）。安心して復職できる環境作り（保育、託児の充実。料金の見直し。日中の求人を増やす等）。子育て世帯の減税、児童手当の増額等（若い世代はお金がありません。出産・子育てにはお金がかかります。自分の両親も介護も必要になります。又、自分の老後も不安でたまりません）。景気回復、上昇（低所得者にも十分な恩恵があるまで）。初婚年齢を下げる

◇既婚 35歳～39歳

女性が結婚・出産をしたのち、ちゃんと働ける場所が有る事。継続して、子供も安全に預けられる場所が有る事。そういった会社、地域作りをして欲しい

結婚率を上げるような出会い等をプロデュースする。所得や待遇の良い就職先を増やすよう支援する（若くて良い人材が都会へ流出するのを防ぐ）

幼稚園などの保育料がもう少し負担が少なくなれば、すぐにでも次の子供を考える余裕が出来るのではないかと思う。県外からのIターンが増える様に、富山の魅力をもっとアピールする（災害が少ない。水道水がおいしいなど）

学費等、小～高、大学まで負担 0～少なくなれば、お金の面で安心できると思います。施策ではないですが、大人が子供に関心がないように感じます（子供がいる人もいない人も）

結婚に至る様な出会いの場をもうける

私は2人目不妊に悩み、通院をしながら2人目を授かることが出来ました。不妊治療は時間もお金もかかります。朝イチや、指定された日に病院に行かなくてはいけない為、職場にも理解してもらわなくてははいけませんでした。病院には不妊に悩む方がとてもたくさんおられます。不妊治療にかかるお金がもっと安くなってくれるといいなと思います。私のまわりでは、3人・4人兄弟がけっこうたくさんいます。それでも少子化なのは、産みたくても産めない人が増えているからもあるのではないのでしょうか

第1子は20代で出産、第2子は30代後半での出産でした。第2子を妊娠中は、自分の年令による胎児への影響を不安に思い、出産後は第1子のと比べて体調の戻りも遅く、育児も体力的に大変です。できれば、小中学生のころから、早目に子供をもつことの良さ（身体的、社会復帰の面で）をイメージさせる教育が行われれば良いと思います。高齢出産のリスクだけでなく、早くに出産することで得られる人生設計を若い人たちに知ってほしいと思います。もちろん、出産は強制ではありませんが、あまりにも出産について言及しにくい世の中になっている気がします

子育てしやすい環境づくり。保育所に入りやすくしてほしいです。夏休みのある幼稚園だと働きにくいこともあり、保育所に入れようと思っても、定員を超えていたりして入りにくく、働きに出ることが難しい。こどもを増やしたいが、働きにでるのもむずかしく、産みづらく、育てにくいように思います

高収入額によって、医療費や子ども手当を切り捨てられるのは納得できない。子どもは皆、平等なのでは？例えば学校で複数人がケガを負った際、他の子と同じ処置を受けているのに、我が子のみ医療費を支払う。又、インフルエンザに罹患し、受診、投薬をしてもらうが、横にいる子は医療費支払わず、我が子は支払う。高収入の場合、その分、税金を納めているはず

共働きをする夫婦が多いので、女性だけでなく男性がもっと子育てしやすい職場環境にしてほしい。男性が多い職場では、未だに子供のために休暇をとることが理解してもらいにくい。男性自身にも、子育ては「手伝う」ものでなく、「お互いにする」ものだということの意識を持ってもらえるよう啓発してもらいたい

◇既婚 35歳～39歳
国が子供への手当を増やすとよい（券等でもよい）。インフルエンザの予防接種等で使えるとよい。3人だと2回接種だとかなりの金額になる
出産後、安心して働ける職場の体制づくり。それと独身者の出会いの場をもっと提供してほしい。子供のうちから「結婚して家庭をもつことのすばらしさ」を教育するべきでは？私のまわりには、全く結婚に興味のない人（30代後半）が何人もいるので
不妊治療中です。35歳で高齢出産決定です。「少子化対策として」として、20、30代の女性がアンケート対象にされるのはどうかと思います。今、「少子化が進んでいるのはあなた達のせいですよ」的な意味としてとらえます。少子化対策のために子どもを産んでいる人なんて0だと思います。産みたい人は産むし、産みたくない人は産まないでいいと思います。人口を増やしたいのなら、もっと他のできることに力や予算を作った方がいいのでは？！
社会復帰がしやすい環境づくり（企業内での育児休暇の取得、再就職支援）
子どもを産み育てる事が、経済的、精神的に援助できるような街づくりを望みます
これから子供を保育園に預け、仕事を探すにあたり、保育園は充分にあるが、子供が病気した際の病児保育施設に対する不安があります（定員オーバーの時など）。子供医療費無料は有難いが、小児科が常に混んでいる。軽い病気ですぐに医者に行く傾向がみられる
子供を授かりたくてもかなわない人がたくさんいます。結婚した年齢も、高くなってきています。医療面で、人工授精など、公的に補助金を出しているのは聞いたことはありますが、少子化問題が深刻になっている中、不妊治療に関する医療費をもっと安くしてほしいと考えます。私自身も不妊なので、定期的に病院に通院しています。「病院に行ってまで」という人もたくさんいることでしょう。「お金をかけて子供を授かる時代」になるのは不平等だと思います。晩婚の人でも、あきらめないように、なんとかお願いします。あとは、若い20代の男女が出会う機会を設けることが大事だと思います。若い人たちが出会える場を企画するのもよいと思います
小学校の放課後保育の充実（地域格差があります。共働きの場合、18：30～19：00くらいまで、安心して預けられる場所があると助かります。実際に共働きの方が、他地区（学区）へ送り迎えしているケースがあります）。病児保育の充実（富山では働いている女性が多いので、サポートして頂けると助かります）。少子化対策につながると思います
老人に対する社会保障を低減することで、若い人の将来負担が少なくとも増加していかないと、未来が信じられるようになること。また、その上で、子育てに必要な費用の低減がはかれること
結婚していて、子どもがほしいがなかなか授からない夫婦の医療・経済的サポートを行うもの。不妊治療はイメージが重いので、イメージをよくする活動
何らかの形で、助成金、援助などを分かりやすく伝えるなどしてほしい。まだ子供がいないので、全くどのような制度になっているのかが分からないので（結婚してまだ2ヶ月程です）。このような制度が無いのであれば、望みます

◇既婚 35歳～39歳

子を産み育てやすい地域づくり。例えば学童の充実。現実をみてほしい。例えば17時までと言われても、大半の親は無理。そのような現実では、子育て・出産に対しても前向きにはなれない。富山は共働き率が高いので、子育ての充実が重要です！！

1人出産するごとに、500万程支給してください。共働きフルタイムで働いても、子どもを十分に育てられるお金がありません

出生率という言葉からは、既婚者（夫婦）にとっての問題のような印象を持ちがちだと思う。少子化・人口減少対策というと、出生率や既婚率、両方の問題ですよね。晩婚化が原因？子供の年齢から逆算すると、もう少し若ければもう1人子供がほしいと思うことがある。男性、女性ともに、結婚して家庭を持ち、子供を育てたいと思う社会づくりを希望します

子供を養育するにあたり、仕事をするには、やはり保育園に預ける事が必須となってきますが、その保育料がとても高い為、家計を圧迫されます。住宅ローンと保育料で、片方の給料がなくなってしまいます。保育料の見直しを、ぜひとも検討頂きたいです。結婚・出産は、しようと思っできるものでは、けしてありません。晩婚化のこの時代、少子化はさけられないと思います。もっと若い世代（20～25歳）に、結婚・出産の良さを伝えてはいかがでしょうか。（指標を設けることは）不妊の方には残酷な事に思われます

保育料をもう少し安くする。今回、インフルエンザ予防接種の助成券が小学生と中学生のみ頂けたので、すごく助かりました。未就学児も出して頂ければいいなあと思いました

具体的には考えが出ないのですが、3人目、4人目の子供に対しては、なるべく保育料や医療費などが無料であれば嬉しいです。3人目、4人目は本当に何事にもお金がかかります。放課後児童クラブも保育所に近いぐらいの時間までにしてもらえると助かります。少人数の小学校だと、やはり開設時間が短いです。しかし、指導員さんも大変でしょうから、もう少し時給を上げてあげたらと思います

結婚が遅いと子供がほしくても不妊だったりして、なかなかできない場合の確率が高くなってしまいう。晩婚化対策と子育て支援、不妊助成など、複数の対策を同時にする必要があると思う。昔は結婚をお世話する人がいたらしいですが、今はそういった人が減っているように思う。お見合パーティーとまではいなくても若い男女が気楽に出会えるイベントが多数あればなあと思う。周りでも未婚の人が多いため、色々難しい問題だなあとは思いますが

良い保育園（信頼できる先生、第2子～保育料減額、明るく清潔な環境、しっかりした父兄会のシステム、地域ボランティアの協力など）。子育てママの就職先紹介、お迎え、病児保育の体制を地域で協力して作る。結局共働きが収入upにつながり、ママのストレスを分散させ、子供をまた作ろうと思う

仕事をしていて、仕事、育児、家事をこなすことが大変。小学校の学童を小6まで預けられるようにしてほしい。病気になった子供でも預かってくれる施設を増やしてほしい。共働き、核家族、田舎である事で、子供を増やす生活がもてない

◇既婚 35歳～39歳
子どもがいても仕事をするなら責任をもつという女性の意識。また、そういう女性を受け入れる社会の体制づくり。子どもが産まれた時に、ちょっと「おお！」と思えるようなごほうび
出産後も引き続き正社員として働けるような社会のサポートがなければ、第2子、第3子を出産する人がどんどん減ってしまうと思う。保育園の充実（時間外、土日、病児保育等）が必要だと強く思います
子供は一人でも多く産みたいですが、教育費（ならい事 etc.）の事を考えると、そうもいきません。夢を持って日々がんばっている子の何らかの後押しがあると嬉しいです。大成した子達は、未来の富山を心豊かな町にしてくれると思います
もっと子供の遊べる環境をととのえる（例 スーパーなどにも授乳室やプレイルームといった所。トイレには一緒に入れる様に、とか。ショッピングモール以外にも作るべき）。特に市役所や職安、税務署など、手続きに行った際、子供がいるとグズって時間がかかる。せめて、トイレでおむつ交換や授乳スペースは必要
頼れる親族がない転勤生活を送っていたので、2人の子供の年齢差が大きくなってしまった。上越には24時間頼れるファミリーヘルプ保育園と病児保育を併設した開業医がいた。とても育児しやすく、頼れる人がいない場所でも気軽に仕事復帰ができた。富山は祖父母に頼れる環境が身近にあるため、まだまだ他県に比べて遅れている。核家族で母が一人で子育てしたり、仕事を子供の病気で休みがちでいごこちが悪くなったりするケースが多いと思う。富山に帰ってきてすぐ2人目を産む気になれなかった。残念。3人目はあきらめた
保育料の軽減。学童の充実。その前に女性の賃金UP
以前より男性が育児に参加するようになったとは思いますが、うちもそうですが、会社を休んで（育児）までの参加はありません。実際、こどもが産まれてからが1番大変な時期なので、夫にも協力して欲しいと思っていました。これにはやはり、国や県からの命令的要請（決まり、法、条例 etc.）でもなければ叶いません。その点も検討して頂けたらと思います
出産後の子供に対する支援も大事だが、子供が欲しくてもできない方の為の補助がもっとじゅうじつすればいいと思います
育児費用のため税金の控除や児童手当の増額
養育費の支援
若者が住みたくなるような、なにかがあればいいですね
気軽に子供を安心してあずけられる施設。病気の時もあずけられる施設。料金がてごろであること
県や国が少子化対策としてお金をばらまく必要はない。子供を産む事がそんなにえらいのか？と思う。中には無計画に（経済的余裕もないのに）3人も4人も子供をつくる人がいるが、どうかと思う。1人1人が自分の身の程をわきまえて子育てが難しいと思うから出生率が上がらないのでは？若年層の雇用対策のほうが大切だと思う

◇既婚 35歳～39歳

女性が子供を産んでも安定して働くことができる社会をつくる。子供を産んであずけることができる施設の設置。会社等による意識改革（例えば、子供が熱を出してしまったら、会社の仕事に穴があく等で正社員としてやとにくい、など）

現状だと出産するにもお金がかかるし、その後も育児、教育にも多額の費用がかかる。そのために仕事をして、保育料も高いし、来年度からは時短保育になったり、子供の負担にならない時間に働こうと思っても延長保育を使わなければならないとなったりと、不都合が多い。結局、生活のために働いているのに、保育料を払うために仕事をしているようなもの。今の支援は、親が望んでいる支援の形ではない。もう少し親の要望を聞き入れてもらいたい。実際は授かったので、他の家庭に比べて子供は多いですが、もし授からなかったとしたら、努力してまで子供を持とうとは思わない。行政が産みたくても産めない状態を作っている事に気付かない事には何も解決しない。男性とか、子供を持った事のない人達がいくら考えても解決できない。目標を設定しようという考え方が女性に対して失礼！！設定されても、そのために自分が産もうとは思わない

子供支援の充実。学童、保育園の利用充実。休日、延長など。育児休暇中の支援（お金）など。医療費、中学・高校までであるととてもありがたいです

目標出産数以上 出産したら、一時金上乘せ。会社の育児休暇を取りやすく、復帰しても病気の時など休みやすいようになれば良い

習い事専用クーポン（月 5000 円）があったらいいです。滑川市はインフル代無料ですごく助かりました。きれいで安全な公園、室内で子供達が楽しく体を動かせる施設があるといいです

少子化・人口減少は問題だが、子供が欲しくてもできない人、結婚したくてもできない人がいるため、指標を設けると逆に負担に思う気がする。不妊治療費の低減、お見合いパーティーなど、バックアップする形をとる方が優先だと思う

子供が預けやすい環境づくり。出かけやすい遊び場づくり

企業における産休・育休をあたり前にとれる世の中であってほしいと思います。権利を主張することにひげ目を必ず感じていたり、産んですぐ戻ってくるのが当然と考えられていたりするようでは、どんな対策を出されても効果は上がらないと思います。産みたくても産めない人も多いのでは？企業で働く女性が働きやすい会社が増えれば少子化も少なくなるのかもしれませんが

子育てにはお金がかかるものだと思う。もう少し免除があると、2人目、3人目を産もうかなと思う人も増えるのではないかと思う。例えば、幼稚園や保育所の無償化など

富山県は自然に恵まれていて住みやすいが、若者にとっては魅力不足。金沢市のように商業施設に力を入れてほしい（フォーラス的なもの）。また、子供を産むと県や市からお祝い金（お祝い品）がもらえるとか何かしらの特典があれば良いかも

子育てのために仕事を休まなければならない事態（子の急な病気など）に対し、個人に合わせてフレキシブルに対応してもらえる様、企業への働きかけ、補助の充実をはかる。雇用者数の拡大による、各個人の負担軽減→家庭生活の充実。男性の、子育てに対する意識改革を促す

◇既婚 35歳～39歳

18才までの授業料無償化。18才までの医療費無料化

医療費が無料（氷見市は中学卒業まで）もありがたいが、インフルエンザ等予防接種の補助もあると助かる。出産時、消耗品がもらえれば、少しは安心して産めるのではないか

子供1人でも子育てが大変なうえに、保育所が休みになる週末は、子供を連れて行ける場所が無く、困っています。その事を考えると、2人目はいいと考える方も多いと思います。なので、週末にも開いている支援センターや、子連れで行ける食事処など、もっと助けてもらいつつ、楽しく子育てできる場所などがあれば、今以上に2人目、3人目、と考える方が多くなると思います。私にとっては、子供が小さい3才までの子育てが、より大変と思っているので、年中開いている場所や食事処があれば、気持ちも楽になり、3人目も安心して産めるような気がします

子育てしながら働きやすい環境づくり。時短勤務への理解が得られる施策

子供が欲しくても、授からない人もたくさんいます。治療費が高く断念する人もたくさんいます。ここ（治療費）を支援してあげるべきです。パートの人も社員になれるようにしてあげるべきです

難しいことはわかりませんが、環境を整備したり、制度を整えたり、子育て世帯やリタイア世帯が住みたくなる町づくりで、新たに人を呼び込んでほしいです

女性が家庭も仕事も無理なく出来る環境が（対策）必要だと思います。何だかんだ言っても女性は家庭も大切です。仕事だけ出来る環境を整えるだけでは、少子化はなくならないと思います。子供を育てる費用がかかりすぎるので、ここをまずクリア出来るといいと思います

結婚、出産後も働きたい女性にとって安心して働ける環境作りが必要なのではと思います。低料金又は無料の託児所（企業単位だとお良い）。子供が急な病気などは働く女性にとって大変な事だと思うので、その対策。その他は不妊治療にかかるお金が低料金でできると良いと思う

多くの問題があるので一口には言えませんが、「子供が、女、女、もう一人男の子がほしい！とは思うけど、成人するまでにかかるお金を考えると、自分の稼ぎでは困難」という知人がいます。核家族が多い今日、お金の助成以外のサポート体制が無いと、子作りに進めないのでは？パパが1人で仕事&子育てしてママの帰りを待っている家もたくさんあります。金銭的な助成は勿論の事、「妊娠・子育てサポートセンター（ダイヤル）」を開設し、様々なケースにサポートしたり、アドバイスしたり出来る様にしてほしいです。『子供と共に幸せライフ』子供と過ごす幸せを、いっぱい、いっぱい訴え提案していく必要があるのでは？

夫の勤める中小企業では、育休は取ることはできないし、子供の行事すら休ませてもらえません。残業も多いですし、働いている人へ対する思いやりがひとつも感じられません。夫も正直、疲れきり、もう1人とは考えられません。こういう事もとても大事だと思います。中小企業も少子化に対する体制を改めて考え直して欲しいです

◇既婚 35歳～39歳

保育園と幼稚園の預かり時間を同じにする。もしくは、希望すれば、望んだ保育園に必ず入所できるようにする。希望していない保育所に入れるからと、待機児童がいないというのはおかしい。もっと現実をみて下さい

子供を産んでも安心して育てられる経済、場所、物価、不安のない生活

出生にかかる目標指数などを設定する前に、結婚していない人が多すぎると思います。結婚させるのが先だと思います。周りでは、3人、4人と産んでいる人も多し、結婚すれば自然な流れで子供も増えるのではないのでしょうか。あと、子供にかかる費用をもっと助成してもらえたらいいと思います。例えば、高齢者はインフルエンザワクチンの補助があるのに、子供にはないなど、負担が大きいです

私の周りに結婚していない人が多いので、市町村などで婚活を積極的に行ったらいいと思います。妊娠適齢期や不妊症についてなど、中・高校生に教育が必要。子供が大学生になる時に金銭的な不安があるので、税金の免除など金銭的な支援があると将来の不安が軽減して出生率が上がるのではないのでしょうか

子育てや教育への経済的負担の軽減

女性の職の安定。男性社会の偏見。産みたくても産めない人がたくさんいる。ただ出生率・数に表したところで何の意味もない。少子化対策を焦点から間違えている

産婦人科医院の増加（市町村によって、多い少ないの差がある）。子供が安心して成長、生活していけるような、安心安全な地域づくりに力を入れる

結婚していない独身の方が多く見られます。女性も男性も、結婚願望が全くない訳ではない人がけっこうおられるので、出会いの機会を自然な形でできるようなイベントがあればよいと思います

学童保育施設が不十分なので、働いている者にとって子供を預ける施設を探すことが大変です。定員もあり、希望の施設に入れず、勤務先から遠く、料金も高い学童に預けることに不満があります

働くママの環境整備。経済的な補助

子供を増やす→人口を増やす→児童手当を上げる事！！子供を持つ親としては、プラスになる事がないと大変です！！関係ないかもしれませんが、小学生の夏休み、冬休みの預かり学童（無料）を設定してほしいです。働く親として出来れば長い時間学童をやってほしい！！

子供を育てやすい様に金銭的部分での施策がほしい。保育料の値下げなど。高校の授業料より、保育料を下げた方が子供を産む、育てるのにプラスになると思う

未婚者を減らすことが、一番の少子化対策だと考えます

流産経験があります。妊娠、出産、子育てに関する支援はもちろんですが、妊娠に対するリスクや支援、不妊に対するケア等も充実させて欲しいです。子供が欲しいと望む人を増やす事が大切だと思います

家庭と仕事を両立させた場合、子の数分、病気や行事で休暇を取る必要があります。やむをえない理由とはいえ、子どもの数分、負担が増すと思います

◇既婚 35歳～39歳

結婚する人を増やす（結婚したら、引っ越しや新築の支援金を給付）。育児環境の充実（保育士の確保）。子どもの成長に応じて、遊べる安全な環境施設の確保。子どもの学費支援。子育て世代の優遇（車両税軽減）

子どもを育てながら働きやすい職場環境。職場復帰しても、早く帰ることができない。もっと子どもと一緒にいたいのが難しい。「保育園など充実していれば、子育て支援につながる」という考えの世の中だが、そういう考えの人ばかりではないと思う。すべての職場でもっと母親が働きやすい制度になる方が、母親としてはうれしいし、子どものためにもなると思う

仕事を続けていける環境。子育てをしやすい仕事を増やす

丁度、子育て世代（7才児の親）ですが、まわりをみても、産むだけ産んでも、育てられていない人が多くいます。ただ増やせ増やせと言ったところで、きちんと育った大人にしなければしかたないものです。適齢期の女性（20～30代）に、「子を産み育てるとは」キレイごとだけじゃない部分も、しっかり学ばせた上で、妊娠・出産に立ち向かわせる気構えを指導すべきです。産みたくとも、様々な理由で「産めない」人がいます。（指標を設けると）そのような人のカタミがせまくなるように思います

仕事をしていても子そだてしやすいように。放課後も子供をみてくれる所、時間を長くしたり、土日でもみてくれたりする所があればいいです。たまには、土日、イキヌキが必要です

出産までの県としての助成は以前に比べると十分に行われていると思う。（検診の無料や一時金の増額）子供を産んで育てることに関しては、とても手厚いものになっていると思うが、女性が社会で働くことにもっと、県も企業も真剣にならないと、女性が安心して子育てをしながら働くことができないと思う。仕事に迷惑がかかる。休みづらいといった理由での離職は女性がかわいそうに思うし、だからといってお金や保育の充実だけに目をやるのはちがう気がします。会社や社会が働く女性をもっと理解してほしい。女性ばかりの職場だと、未だに昔は育休なんてなかったとイヤミを言われることも

不妊治療などで悩んでいる友達はたくさんいます。目標指標を設けることが負担に感じる夫婦もいると思います。子供が小さいうちは、遅くまで子供を預かってくれるところがたくさんあるが、小学校にあがったとたん、預かってくれるところが少なくなる。学童保育も学校によっては低学年だけと制限されるところもある。また、小学生の子どもが遊ぶところが少ない。公園でさえもボールで遊べば近所の人に注意され、遊具さえも音が近所迷惑だと撤去される。子供が安心して遊べる所が少ない、夏休みなど長期の休みにみてくれる人がいないと働くことができない。そうすると子供は少ない方がいいになってしまう。子育て支援や医療費などの所得制限は設けないでほしいです。共働きの家庭の方がトータルの所得が多いにも関わらず、もらえる家庭もあるのは不公平です。夫婦の所得トータルで算出してほしいです。私は子供をたくさん産んで何がいいことがあるのか分かりません。子供には手厚い教育をさせたいので、そうすると教育費などが多くかかる。でも一人ではかわいそうなので兄弟がいて二人で充分だと思っています。三人以上産むメリットは何もない。子供が一生涯安心して生きていける政策がない限り、人口は減少し続けるのでしょうか

◇既婚 35歳～39歳

私の住む市は子育てにやさしい市とは思えない。住みにくい。学童の拡大を早急に対応してほしい。子供がかわいそう。かぎっ子が増えている。不審者も多くなってきている世の中に子供を家において働いている親の気持ちを全くわかっていない。もっと市民の為、子供のためにお金をつかっても良いのでは。税金ばかりとって行って。子供の為につかうなら良いが違うところでつかわれていると思うと腹立たしい。保育園、学童の拡大。受け入れ人数を増やす。学童に入れない子がどれだけいるのか調査すべき。学童も1～6年まで入れてもらいたい。3年でおわるとかありえない。預けなければ働けないのに入れないそんな状況で誰が子供を産みますか。学童に入れず子供を家において生活の為に働きにでている親の気持ちをわかってもらいたい。特に学童を増やして欲しい。夏休みなど1日おいていかなければならない核家族が増えていることを県市はもっと把握すべきだ。これらを解消しないうちは子供の数は絶対に増えない。現に自分の子供も学童に入れてもらえず家に兄妹でいる。何かあったらどう誰が責任をとってくれるのか。生活の為に働かなければならないから仕事はやめられない。少子化を何とかしたいなら産みやすい環境を市でしっかり考えるべき。隣の市など子育てにとっても手厚いのに私のところは。宅地を増やしたのならそれなりの対応をしてもらいたい

少子化対策というと、子育て支援ばかりが取り上げられているが、都会と違って富山県ではお金や環境が整わないから出産を控えるとかあきらめるということは少ないと思う。それよりも、子どもを持ちたいがなかなか妊娠出産に至らないケースの方がよほど多いと感じる。県や市町村でも不妊治療への支援はなされているが、いかにも都会にならって通り一遍のことしか実施されていないように思える。もっと幅広いケースに対応して、例えば不育症とかそういうことにも支援が進めばと切に願う。書いてある通り、結婚や出産は個人の自由が尊重されるべきもので、目標など設定すること自体違和感がある。子どもをもちたいと願ってもなかなかかなわずに苦しんでいる夫婦に寄り添って、支援なり対策が行われ、結果、子どもを得ることに結び付けば、県も個人も万歳となるのではないか。富山県ならではの、誠意あるきめ細やかな対策を求める

